

北九州市立大学 地域共生教育センター

ラボ・レター

<活動報告書 2022>

この活動報告書は、421Lab. (ラボ) から地域の皆様と共に歩んでいきたい
という思いを込めたお手紙 (レター) のように作成しました。
これまでの活躍への感謝とこれから始まる新しい関係への、
私たちからのラブレターのように手に取っていただければ幸いです。

発行：北九州市立大学 地域共生教育センター (421Lab.)
発行日：2023年3月
編集：北九州市立大学 地域共生教育センター (421Lab.)
協力：プロジェクトに参加していただいた多くの皆様
制作：平和タイプ・プリント社



421Lab.

北九州市立大学 地域共生教育センター
Regional Symbiosis Education Center

〒802-8577 北九州市小倉南区北方4-2-1 (北方キャンパス2号館1階)
[TEL]093-964-4092 [FAX]093-964-4088
[E-mail]info421@kitakyu-u.ac.jp
[OPEN]10:00~18:00 (月~金)

詳しい情報やアクセスはホームページでチェック

www.kitakyu-u.ac.jp/421/

Twitterで活動の最新情報を発信中 twitter.com/421lab_students

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です



北九州市立大学 地域共生教育センター

ラボ・レター

<活動報告書 2022>



ラボ・レターによせて

北九州市立大学地域共生教育センター（通称：421Lab.）は2010年4月21日の設立以来、地域社会における実践活動を通じた若者の人材育成を図ることを目的として、地域活動に取り組む学生たちを一貫して支援してきました。お陰様で活動も13年目を迎えております。単位も付与されない、報酬を得ることもないという状況の中で、学生たちが主体的に学ぶ姿勢やモチベーションを保ち続けて来られたのも、ひとえに地域の皆様方のご支援・ご協力があったからこそだと感じています。あらためまして、これまでのご厚誼に感謝を申し上げます。様々な地域の皆様方に支えられながら活動をしてきた学生たちは、ここで蓄えた経験や知見を携えて社会に出て、現在、全国各地で活躍しています。

新型コロナウイルスの感染拡大が始まって3年目を迎え、今年度は少しずつではありますが、421Lab.の活動も落ち着きを取り戻しつつあります。オープンキャンパスや大学祭などの学内イベントを始め、学外でのイベント参加も増え、子どもたちとふれあう活動もほぼ定期的に行なえるようになりました。また「北九大もったいないプロジェクト」「KITAQキャンパスSDGs」「生理の貧困プロジェクト」の3つの新プロジェクトが立ち上がり、北方キャンパスの所属教員に新たに指導を頂いております。2年間はオンラインの開催だった地域活動発表会もお陰様で3年ぶりに学内で開催することができ、対面による学びの効果をあらためて実感したところです。協賛頂きました関係者の皆様に御礼申し上げます。

来年度はコロナ禍以前の活動に少しでも近づいていくことが期待されます。世界を取り巻く環境が大きく変わる中で、時代の変化に即した新たな課題に臨機応変に対応する柔軟な力を、421Lab.の活動を通じて学んで欲しいなと願うばかりです。学生の成長のために、引き続き変わらぬご支援、ご指導を頂きますようお願い申し上げます。

2023年3月
地域共生教育センター長
内田 晃

「体験だけでは終わらない」ための4つのステップ

INDEX

- 3 421Lab.の「体験だけでは終わらない」ための4つのステップ
- 4 STEP1 事前研修
- 6 STEP2 実践活動
- 8 421Lab. 運営スタッフ
- 10 KITAQ絆∞復興応援プロジェクト
- 11 防犯・防災プロジェクト (MATE's)
- 12 421Lab. わくわくキッズプロジェクト
- 13 桜丘小学校学習支援プロジェクト
- 14 『食』から学ぼうプロジェクト
- 15 子ども食堂応援プロジェクト
- 16 421Lab. いぬねこプロジェクト
- 17 「ブンガクの街北九州」発信プロジェクト
- 18 TFT×KitaQ univ. プロジェクト
- 19 国際交流プロジェクト FIVA
- 20 地域クリーンアッププロジェクト
- 21 まち美化魅力向上プロジェクト Clear
- 22 青空学プロジェクト
- 23 平和の駅運動プロジェクト
- 24 北九州市立大学BBS会
- 25 421Lab. 英語で遊ぼうプロジェクト
- 26 421Lab. +TAP SDGs Community
- 27 北九大もったいないプロジェクト
- 28 KITAQ キャンパスSDGs
- 29 生理の貧困プロジェクト
- 30 STEP3 2022 地域活動発表会
- 32 STEP4 振り返り研修・リーダー交流会
- 34 2022年度トピックス1 「環境ESD演習I」フィールドスタディ (滋賀・京都)
- 36 2022年度トピックス2 北九州市・フィリピン共和国ダバオ市「環境姉妹都市締結5周年事業」への参加
- 37 2022年度トピックス3 高校生×北九大生「ジェンダー問題」探究学習プロジェクト
- 38 Leader's Voice
- 40 REGION×STUDENTS
- 42 421Lab. 概要
- 43 「地域活動のタイプ」について
- 44 短期型の地域活動
- 45 短期型地域活動紹介 私が活躍できる場所、を見つけました
- 46 2022年度地域共生教育センター活動記録
- 47 パブリシティリスト・メディア
- 48 地域活動のお申し込みの流れ

「何を考えるか」から「何を学びとるか」へ

近年、学習のカタチが変化し、教員が一方向に教える講義スタイルから、社会現場での体験活動に主を置いた実習スタイルが増えてきました。421Lab.でも、商店街の活性化や自然環境の保全、伝統文化の継承などの実社会にある身近な課題をテーマとして、専門分野を超えて課題解決に向けた連携が進んでいます。

しかしながら、一般的な実習スタイルでは「体験すること」が目的となりがちであり、本来のねらいである「教育」からずれてしまうこともあります。

421Lab.では、「事前研修」、「実践活動」、「発表機会」、「振り返り研修」というPDCAサイクルを回すことで、学生自身が何を学びとるかを考え、確実に成長するプログラムを備えています。地域活動に関わった学生が取り組んだ課題に興味を持ち、卒業後の進路につながったり、活動で達成できなかった部分を自分の課題として向き合ったりしていくことにつながります。

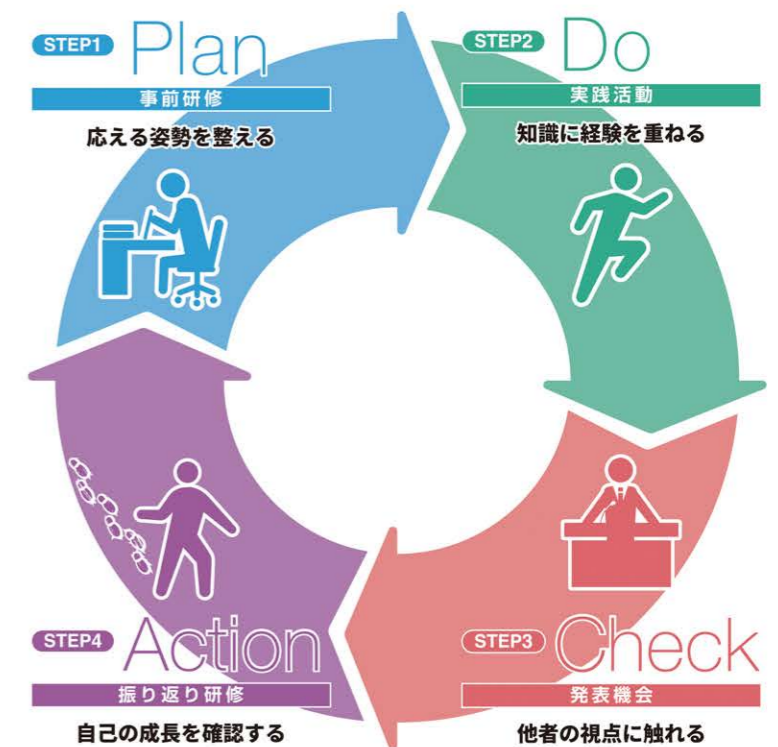
体験するだけで終わるのではなく、学生が「体験を通して学びとる」ことに注力し、学生の成長を応援します。

PDCAサイクルとは

PDCAとは、Plan (計画)、Do (実行)、Check (分析)、Action (修正)の頭文字をとった造語で、プロセスのサイクルを大まかに説明したものです。

どのような活動でも、ある目的に向かうためのプロセスに当てはめることができ、PDCAサイクルを何度も繰り返すことが活動の改善に直結します。

しかしながら、PDCAを意識せずにいると、Checkまでも到達せずに、与えられた計画に対して実行を続けているのみになります。



STEP1 Plan

事前研修

事前研修は、地域活動をするにあたっての基本姿勢を確認し、身につけるための準備の場です。昨年度からの継続メンバーと今年度から参加する新規メンバーがともに、これまでの活動内容や昨年度の反省を確認し、また、プロジェクトの目的や今年度の目標を確認するために「スタートアップ研修」を行いました。今年、マナー講座やデザイン講座も開催しました。

前期スタートアップ研修

【日時】2022年5月14日(土) 10:00～11:45

前期スタートアップ研修は、学生運営スタッフが、421Lab. に所属するプロジェクトメンバーに向けて、421Lab. の説明をし、各プロジェクトのメンバー全員が自分の所属するプロジェクトの目的・目標を再認識するための研修です。冒頭の自己紹介では、知らない人同士が打ち解けやすくなるよう、1つだけ嘘を入れる「うそほんと自己紹介」という方法を取り入れ、和気あいあいとしたムードが生まれました。この研修の目的を達成するために実施したのが「クレドカード」の作成です。クレドとは、企業等がビジョンや目的を達成するために規範となる行動を定めた行動指針を意味するものです。このとき作成したクレドカードを常に携帯することで、プロジェクトの目的や信条を念頭に置いた活動を心掛けられます。

クレドカードとは



クレド (Cred) はラテン語で「信念・信条」

全員が心がけるべきこと簡潔に表した言葉を常に携帯できるようにしたもの

クレドを浸透させるためには「持ち歩きたい」「読み返したい」と思えるクレドカードであることが重要

プログラム

| 時間 | 内容 |
|-------------|-----------|
| 10:00～10:05 | 研修の目的 |
| 10:05～10:15 | うそほんと自己紹介 |
| | 移動・休憩 |
| 10:15～11:30 | クレドカードの作成 |
| 11:40～11:45 | まとめ |



マナー講座

【日時】2022年6月22日(水) 13:00～14:30

この講座は、学生運営スタッフである Lab. 支援グループのメンバーに向けて行われました。さまざまな場面で役立つ「身だしなみ・言葉遣い」「電話対応」「メール」「名刺交換」についての説明の後、実際に参加者で練習しました。「良い例」「悪い例」などの画像も用意され、みんなで楽しみながらマナーを身につけることができました。



デザイン講座

【日時】2022年7月20日(水) 13:00～14:30

この講座は、プロジェクト支援グループが、学生運営スタッフ向けに実施したものです。421Lab. の学生運営スタッフが、資料作成の基礎力をマスターし、場面に応じた資料を作成するスキルを養うことを目的として企画しました。講座では、講座の内容をまとめたミニブックも配布しました。



STEP2

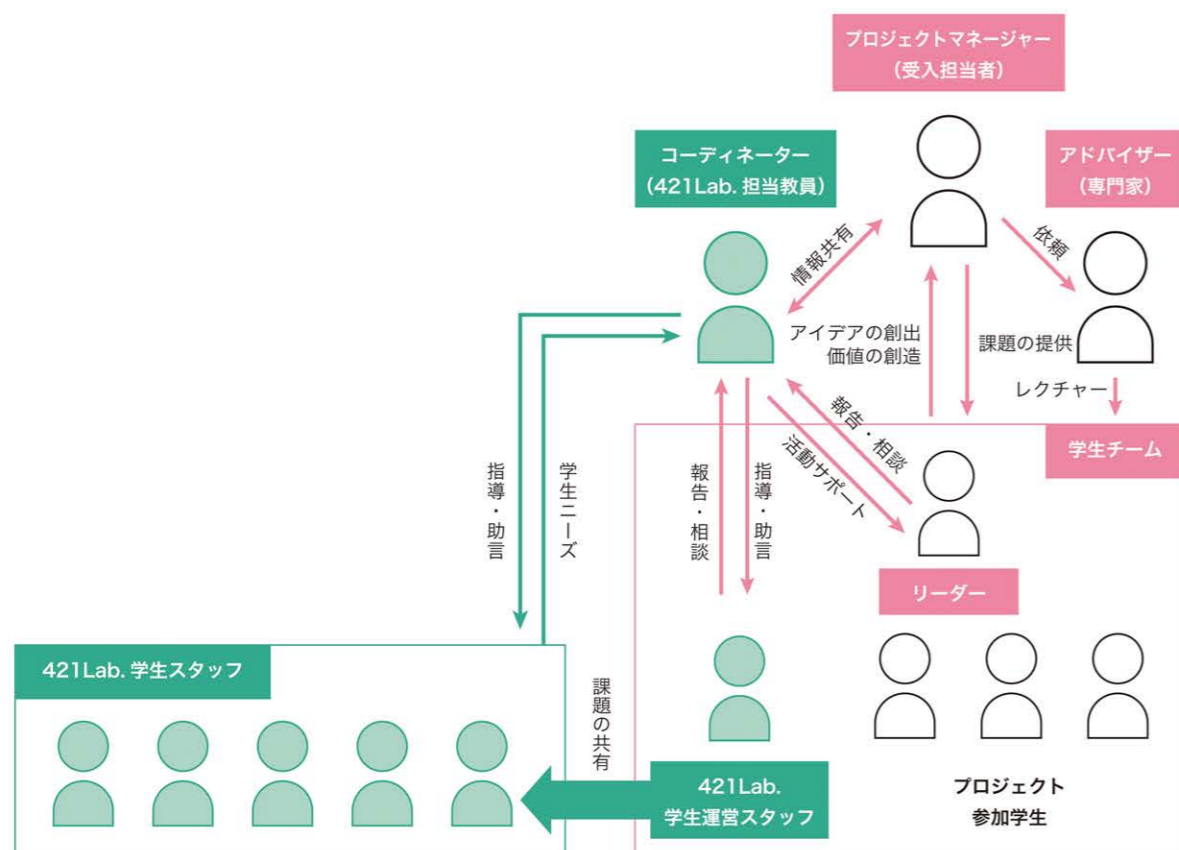
Do

実践活動

実際の活動を通じて、下級生は上級生の考えや判断を吸収し、また経験したことを次なる後輩へと引継ぎます。421Lab.の強みは、このように連続と継承されるPDCAが存在することです。机上の理論だけではなく、現場の空気から状況を読み解いて判断することができ、地域からも信頼される存在となります。教科書では教えられない経験値（経験や勘に基づく知識）をここで獲得します。

実践活動の組織体制

プロジェクトごとに関係主体は異なりますが、基本的な組織体系は図の通りになります。受入担当者はプロジェクトマネージャーとして、目的に向かって進むようにプロジェクトの舵取り役を担います。担当教員はコーディネーターとして関わり、受入先との調整や学生のメンタルサポートを行います。必要に応じて専門家が関わり、学生へのレクチャーを行います。学生はリーダーを1人決めて、プロジェクトマネージャーとの連絡を密に取り、チームをまとめていきます。また、421Lab.の学生運営スタッフが参加学生として関わり、チーム作りのサポートや他のプロジェクトとの連携を図っていきます。



学びのためのきっかけを創りだす

421Lab.における活動は、すべて学生主体の課外活動です。そのようなプロジェクトに参加している学生は、学部・学群、学年横断型のチーム編成や社会人との協働により、新たな価値観に触れ、異なる意見にも耳を傾け、自らの役割を理解しながら活動を進めています。

また、プロジェクトを進めていく際には様々な困難に直面するため、感情的になってしまったり、モチベーションが低下してしまったりすることもあります。途中で辞めずに1年間活動をすることで、学生自身の成長へと繋がっています。

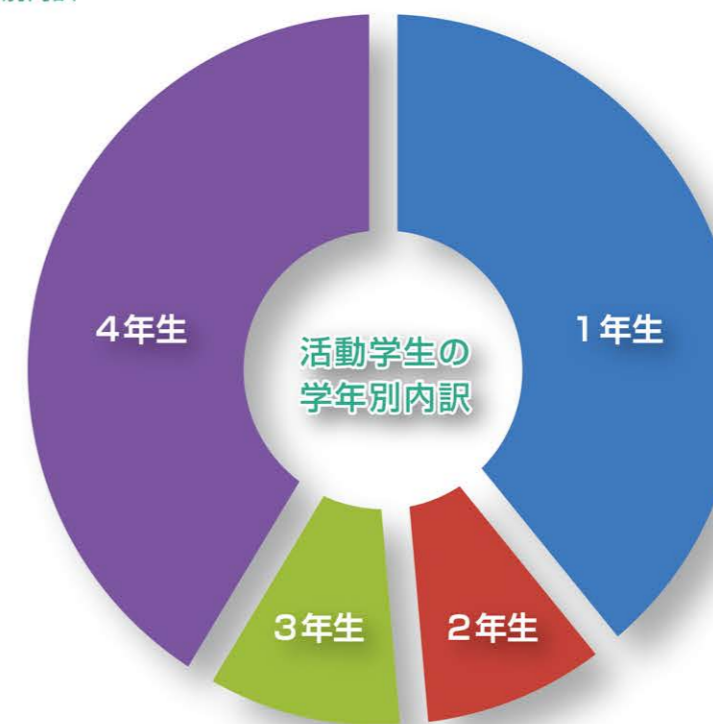
地域と連携しやすい環境や、学生が真摯に活動に向き合える環境を教職員一丸となって提供することで、地域と学生が共に成長できる社会づくりを積極的に進めています。

◆ 地域共生教育センター 基礎データ ◆

■ 登録学生数

920名 (2023年2月現在)

■ 活動学生の学年別内訳



| 学年 | | | | 総計 |
|-----|----|----|-----|-----|
| 1 | 2 | 3 | 4 | |
| 362 | 86 | 94 | 378 | 920 |

※2、3年生の人数が少ないのは感染防止のための全学方針により新入生歓迎オリエンテーションの多くが自粛・制限されていた点による。

STEP2
PROJECT
1

421Lab. 学生運営スタッフ 地域と学生の架け橋

- ◆ **リーダー**
地域創生学群 地域創生学類
2年 柳瀬 萌
- ◆ **プロジェクト人数**
21名
- ◆ **活動開始時期**
2010年4月～
- ◆ **活動頻度**
全体会：週に1回程度（火曜1限）
各グループでの活動：週1回程度
- ◆ **連携・受入団体**
北九州市内の行政機関
民間組織、団体など
- ◆ **主な活動場所**
地域共生教育センター（421Lab.）
及び市内各所
- ◆ **こんな人におすすめ！**
・ボランティアに興味がある人
・様々な経験を積んでみたい人
・企画の運営や組織のサポートをやってみたい人
- ◆ **今年度の活動実績**
・プロジェクト向け各研修の実施
・地元小学校との交流企画
・オープンキャンパス企画
・421Lab.の各種SNSの運用
・421Lab.の各種広報物の作成
・青嵐祭での出店
・地域活動発表会の企画、運営



地域共生教育センター（通称：421Lab.）は、学生の力を必要とする地域と、地域貢献に興味・関心のある学生を繋ぐ「懸け橋」のような役割を担っています。421Lab. 学生運営スタッフは、北方キャンパスすべての学部・学群生に地域活動を通して貴重な学びを得てもらうために、「地域活動魅力発信」と「活動しやすい環境を整える」という2つの目標のもと、どうすれば学生や地域のニーズに応えることができるかを考えながら、日々活動に取り組んでいます。

◆ プロジェクトで活動する学生の声

学生運営スタッフの一員として活動することで色々な学部の人と交流することができ、自分の考え方や視野を広げることができました。また、子どもとの関わり、企業訪問をする機会等、様々な人々と交流する中でコミュニケーション力を高めることができ、貴重な経験を積むことができました。

今年度の活動の内容と成果

今年度は、コロナ禍における行動制限も少しずつ緩和されたため、昨年度よりも活動の幅が広がり、学生運営スタッフが丸となって活動することで仲間意識をより一層強めることができました。特に3年ぶりの開催になった青嵐祭では、421Lab.のイメージカラーである水色のサイダーを販売し、大成功を収めることができました。私たち学生運営スタッフも楽しみながらグループの枠を超えて活動し、421Lab.全体として一体感を醸成することができました。また2月には、3年ぶりに地域活動発表会を対面で行うことができ、学生運営スタッフ全員で事前準備や当日運営に取り組みました。市内各企業への協賛依頼、パンフレット作成等を通じて、メンバー一人ひとりのスキルを向上させることができました。メンバー同士の連携を強めつつ、地域や学生のニーズに応えられるように考えながら活動することができ、実りある1年となりました。

活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

今年度は421Lab.に新たなプロジェクトも加わり、メンバーの数も増えました。学生運営スタッフ内の交流も増え、各グループの枠を超えた活動を行うことができました。来年度は学生運営スタッフの士気をさらに高めつつ、各プロジェクトへのアプローチを強化していきたいです。学生が地域活動をより行いやすいように、また地域の期待に応えることができる活動にするために、地域活動をする学生のサポートに力を入れたいです。



大学・地域支援グループ

- ◆ **リーダー**
地域創生学群 地域創生学類
2年 児嶋 悠菜
- ◆ **グループ人数**
10名
- ◆ **今年度の活動実績**
・小学生を対象とした大学訪問
・オープンキャンパスでの座談会
・青嵐祭での出店

大学・地域支援グループは、本学と地域の発展をサポートするための企画立案やイベント開催等を行っています。学部・学群生はもちろん、小学生から高校生まで様々な世代と交流するため、場面に合ったコミュニケーション方法を学んだり、イベントを行う中で企画運営能力などを身につけたりすることができます。また、学内のイベントでは421Lab.の活動紹介を行っています。

□ 大学訪問の感想

地元小学生の本校への訪問は、大学生という身近なロールモデルに接することで、参加した小学生が将来の展望を具体的にイメージできる機会となるように、様々な趣向を凝らして実施しました。依頼主である小学校側の担当教員と何度もミーティングを行い、依頼主旨でもある「小学生に伝えてほしいこと」を企画に組み込んだり、事前アンケートの集計・分析による参加者が知りたいことを反映させた大学紹介を行ったりしました。また、小学生が理解しやすいように文字の大きさや

レイアウトをよく考え、楽しんでもらえるようにクイズや問いかけも組み込みました。学内をめぐるキャンパスツアーでは、授業見学もを行い、肌で大学に触れることができる機会を創出しました。この大学訪問を通してタイムマネジメントや情報共有の大切さを学ぶことができました。参加した小学生から「楽しかった」との声をいただき、私たちも楽しみながら学ぶことができた大学訪問になりました。



Lab. 支援グループ

- ◆ **リーダー**
経済学部 経営情報学科
1年 北長 武流
- ◆ **グループ人数**
5名
- ◆ **今年度の活動実績**
・421Lab.公式ホームページ内「ラボログ」の更新
・SNSを活用した広報
・講座の開催（マナー、デザイン、SNS）
・北九州市市民活動サポートセンター発行「広報誌キラキラ」への寄稿

Lab. 支援グループは、421Lab. 全体の運営をサポートするグループです。主に広報誌やSNS等で、学生の興味や関心、他のプロジェクトの刺激になるような活動を発信しています。今年度は、マナー講座やデザイン講座等を開催し、学生運営スタッフが活動するうえで必要な知識や技術を提供しました。421Lab.とプロジェクトの活動発信や魅力発信に加え、それぞれの活動が円滑になるようにサポートをすることも私たちの活動の一つです。

□ 3講座の感想

今年度は、マナー、デザイン、SNSについての3講座を開催しました。それぞれの講座は、学生運営スタッフの活動がより円滑に進むように、知識や技術の還元を目的に、プレゼン資料をパワーポイントにて作成し、発表しました。資料作成の際は、内容が簡潔に伝わるように文字の使用フォントやサイズ、調整等見やすいデザインを意識しました。発表時には、より多くの人に伝わるよう、簡潔にプレゼンを行い、有益な情報を分かりやすく整理して提供しました。反省点としては、SNS 講座

の際にプレゼン資料の完成から発表までに時間が空いてしまったことで、全体に共有するべき情報が遅れてしまった点が挙げられます。実施計画に添って円滑に進めることができるように、メンバー内での役割分担や進捗確認を、その都度行うようにしたいと思います。次年度は、実施する講座を学生運営スタッフのみではなく、各プロジェクトにも発信し、規模を拡大していきたいと考えています。



プロジェクト支援グループ

- ◆ **リーダー**
文学部 人間関係学科
2年 宮下 真綾
- ◆ **今年度の活動実績**
・前期スタートアップ研修の企画・開催
・プロジェクト目標設定ワークショップの企画・開催
・プロジェクトミーティングへの参加
・前期振り返り、後期スタートアップ研修の企画・開催
・リーダー交流会の企画・開催
・後期振り返り研修の企画・開催
・活動資金の集め方講座の企画・開催
- ◆ **グループ人数**
7名

プロジェクト支援グループは、421Lab.の学生プロジェクトが活動しやすくなるように交流会などを開いてサポートをしています。プロジェクトの目的や課題を明確にする研修や講座、また他のプロジェクトとの交流会などを年間を通じて開催しています。今年は礼儀作法や資金調達方法といったプロジェクトメンバーのスキルアップに直結する企画も実施しました。

□ 各研修の感想

今年度はプロジェクト向けの研修に力を入れました。前期振り返り研修では、1年間、充実した活動をしてもらうため、前期の活動予定や同窓会助成金を使った活動企画案を発表してもらいました。また、後期スタートアップ研修では、各プロジェクトへの事前アンケートで「メンバーのモチベーションが下がってきている」という声が寄せられていたため、「モチベーションアップ」に焦点を当てて実施しました。コストや時間、前例等の固定観念にとらわれることなく、全員でプロジェクト

活動における夢をリストアップし、それを実際の行動計画に落とし込むことで各プロジェクトの目的を再確認し、活動への動機づけを促しました。参加者への事後アンケートでは90%以上の満足度を獲得することができ、この研修からプロジェクトの垣根を超えたコラボ企画も誕生しました。今後もプロジェクト活動の活性化や課題、悩みを解決できるような活動を行っていききたいと思います。



STEP2
PROJECT
2

KITAG 絆∞復興応援プロジェクト 北九州から食を通じて被災地とつながる!

- ◆ **リーダー**
文学部 比較文化学科
2年 初井 遥香
- ◆ **プロジェクト人数**
10名
- ◆ **活動開始時期**
2011年4月～
- ◆ **活動頻度**
毎週金曜日昼休み
- ◆ **連携・受入団体**
お好み焼きいしん
一般社団法人Camp
- ◆ **主な活動場所**
学内
お好み焼きいしん
一般社団法人Camp
- ◆ **こんな人におすすめ!**
 - ・復興支援に興味がある人!
 - ・地域と繋がりを求める人!
 - ・食に興味がある人!
- ◆ **今年度の活動実績**
 - ・国際交流プロジェクトFIVAとの
合同企画 (留学生との交流)
 - ・藤木小学校防災教室
 - ・焼きうどん講習会
 - ・岩手県釜石市訪問
 - ・被災地視察
 - ・釜石市まんぷくフェス出店



東日本大震災をはじめとした震災の被災地復興支援と風化防止を目的として活動を行っています。地域の祭りやイベントに参加して、岩手県釜石市産のイカと小倉発祥の焼きうどんを掛け合わせた「絆焼きうどん」を販売し、その一部を義援金として寄付しています。また、震災を風化させず防災意識の向上のために、防災教室を開催しています。食を通じて人と地域、被災地とを繋げる活動を行っています。

◆ プロジェクトで活動する学生の声

北九州市は比較的自然災害の少ない地域ですが、だからといって震災が起きないとは言えません。自身の身の安全を守るには、備えることが大切です。そのため、「絆焼きうどん」出店や、防災教室を開催することで地域の方々に震災が身近なものであると認識してもらえよう、活動に励んでいます。

今年度の活動の内容と成果

コロナ禍のため、北九州市内での「絆焼きうどん」の出店活動はできませんでしたが、今年度は岩手県釜石市で焼きうどん出店を行うことができました。2日間の出店活動での売上金計111,785円を釜石市に寄付させていただきました。釜石市の方々がとても温かく出迎えてくださり、北九州市と釜石市の繋がりを体感しました。復興支援は物資だけでなく、人の温かみも重要なのだと実感しました。さらに、焼きうどん出店だけでなく被災地訪問も行い、その中で震災の恐ろしさを改めて痛感させられました。これから起きるかもしれない震災に備えるための力となるよう、食を通じて地域の方々と繋がりがながら啓発活動を行っていきたくです。また、留学生との交流会では、留学生に焼きうどんを振る舞い、震災や復興支援について知ってもらえることができました。活動を通じて、震災はより身近なものだということを知ってもらいたいと考えています。

活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

岩手県釜石市への訪問は、北九州市役所の支援もあり継続することができていましたが、震災から11年が経過したということもあり、2022年が最後という節目の年度となりました。だからといって、被災地との繋がりが途絶えたわけではありません。これまで現地ですんだことを生かした防災教室を開催していきます。また、今後も様々なイベントや祭り等での焼きうどん出店を通じて、震災風化防止に繋がる活動を行っていこうと思います。



STEP2
PROJECT
3

防犯・防災プロジェクト (MATE's) 防犯・防災意識向上の“きっかけ”づくり

- ◆ **リーダー**
法学部 政策科学科
3年 富松 玲雄
- ◆ **プロジェクト人数**
31名
- ◆ **活動開始時期**
2010年5月～
- ◆ **活動頻度**
【ミーティング】毎週水曜日昼休み
【勉強会】第2・第4水曜日3限
【外部活動】月2～3回程度
- ◆ **連携・受入団体**
NPO法人好きっちゃん北九州・小倉南警察署
北九州市役所・小倉南区役所
NPO法人盗撮防犯ボランティアWc
一般社団法人九州防犯パートナーズ
株式会社J.COM・ソフトバンク株式会社
- ◆ **主な活動場所**
学内・北九州市の小学校・市民センター
ショッピングモール・朝倉市など
- ◆ **こんな人におすすめ!**
 - ・防犯や防災に興味関心がある人
 - ・子どもと関わるのが好きな人
 - ・コミュニケーション能力を高めたい人
- ◆ **今年度の活動実績**
 - 【防犯分野】
 - ・二七電話詐欺、運付金詐欺、飲酒運転撲滅注意喚起のキャンペーン活動
 - ・モノレール内での啓発アナウンス
 - ・地域安全マップづくり
 - ・盗撮啓発パトロール、盗撮防止に関する講座を学内で実施。
 - 【防災分野】
 - ・「あそぼうさい」への参加 (市民センターやソフトバンク、ギラヴァンツ北九州とのコラボ)
 - ・雨水貯留管動画の作成⇒貯留管宣伝のため、動画内容の提案・エキストラとして参加 (株式会社J.COM様)
 - ・朝倉支援活動⇒薩摩芋畑・柿畑の収穫のお手伝い
 - ・横代Bousaiチャレンジ



「北九州市を学生の視点から安全・安心なまちにしたい」。そんな思いから、私たちは防犯・防災という2つの分野で様々な活動に取り組んでいます。メンバー一人ひとりが、他人事ではなく自分事として「まちの安全・安心」について深く考え、話し合いながら、有事の際にベストな行動がとれるように、防犯・防災の視点から地域に入り、活動を通してコミュニティの活性化を図っています。

◆ プロジェクトで活動する学生の声

プロジェクト内の学生だけではなく、他大学の学生や子ども、地域の方々等、様々な世代との交流があるため、仲も深まり、楽しく活動することができます! また、活動を通じて犯罪・災害について学ぶことで、身近に潜む危険から身を守る意識を高めることができ、とてもやりがいを感じられます!!

今年度の活動の内容と成果

今年度はコロナ禍で制限されていた活動も再開でき、MATE'sとしても活動の幅が大きく広がった1年となりました。まず防犯分野では、警察署との連携活動が挙げられます。「地域安全マップづくり」への参画、他大学との防犯アカデミーへの参加等、地域の防犯意識の向上に努めました。また、昨年度から始めた盗撮防犯ボランティアWcとの連携も継続し、JR小倉駅構内トイレのパトロールに参加したり、学内で盗撮に関する講演会を開催したりする等、盗撮という観点からの防犯意識向上にも努めました。次に防災分野としては、遊びながら災害について学んでもらう「あそぼうさい」へ参加しました。計11回参加し、これまでの活動を踏襲するだけでなく、企画段階からの参画、新たなブースゲームの制作、ギラヴァンツ北九州やソフトバンクとのコラボ企画等、例年以上に地域の人と広く、深く繋がりをもち活動を行うことができました。

活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

次年度の目標は、プロジェクトの自立と防犯活動の活発化です。現在、私たちは主体的な活動に取り組むことができず、また防災活動が活動の大半を占めており、防犯活動の実施が少ないことが課題となっています。来年度は、防犯・防災活動を自分たちでエリア選定して実施するとともに、他のプロジェクトと防犯・防災活動のコラボ企画を検討し、新たな活動を実施していきたいと思っています。強力なステークホルダーである小倉南警察署ともさらに連携していきたいと思っています。



STEP2
PROJECT
4

421Lab. わくわくキッズプロジェクト 「楽しく学べる遊び」を通じた 特別な時間の提供を!

- ◆ **リーダー**
文学部 人間関係学科
2年 市原 藍衣
- ◆ **プロジェクト人数**
11名
- ◆ **活動開始時期**
2021年4月～
- ◆ **活動頻度**
毎週水曜日の昼休み～3限に活動
月に1～2回ほど不定期でイベントに参加
- ◆ **連携・受入団体**
大英産業株式会社
コラボキャンパスネットワーク
プレイセンターハロハロ
- ◆ **主な活動場所**
学内
幼稚園や小学校
商業施設
- ◆ **こんな人におすすめ!**
・子どもと関わることが好きな人
・工作、企画作りが好きな人
・学部、学年を超えた交友関係を築きたい人
- ◆ **今年度の活動実績**
・大英産業(株)と提携して月に1～2回ほど北九州市内の各地で子ども大工を開催。
・夏にはコラボキャンパスネットワーク、英語で遊ぼうプロジェクトと共同して学校内で夏祭りイベントを開催。
・12月にはプレイセンターハロハロと提携しクリスマスイベントを開催。



共働きやひとり親家庭が増加傾向にある中、子どもたちが楽しめるレクリエーションを開催し、放課後の居場所づくりとして安心できるような時間を提供することを目的として活動しています。また、子どもたちが楽しく遊べる学びを通じて、特別な時間を過ごしてもらうことを目的に、市内の企業や団体と連携しながら、子ども向け出張大工の定例開催、夏祭りやクリスマス会といった季節のイベント等を実施しています。

◆ プロジェクトで活動する学生の声

私たちのプロジェクトでは、ただ関わるだけでなく、どうすれば子どもたちに楽しんでもらえるかを考えながら活動しています。イベントを企画する際には、子どもたちの年齢や遊びの学習効果等を考慮しながら立案することを心がけています。

今年度の活動の内容と成果

今年度の主な活動は、市内不動産会社と提携し、建築・建設現場の端材を活用した椅子や写真立てを製作する出張大工を月に1～2回程度、市内各所でのイベントや保育園等で実施しました。また、夏にはコラボキャンパスネットワーク主催の夏祭りに、英語で遊ぼうプロジェクトとともに参加しました。コロナの影響で数年ぶりの開催ということもあり、子どもたちにとって貴重な夏の体験の場を提供することができました。そして、12月にはプレイセンターハロハロと協働してクリスマス会を開催しました。出張大工の参加者とは異なる年齢層の子どもたちと接し、音の鳴る楽器を製作してプレゼントしたり、クリスマスカード作りをサポートしたりしました。

プレイセンターハロハロをはじめ、新しい組織や他のプロジェクトとコラボする機会を多く設け、主体的にやりたいことを企画して子どもたちとの関わりを深めていきました。

活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

来年度は、新たなチャレンジとして学習支援に力を入れつつ、子ども大工をはじめとする定期的な活動に加え、季節のイベントも積極的に企画、実施していきたいです。また、新しいメンバーを増やすための広報活動や楽しめる雰囲気作りを徹底していきます。そして、子どもたちへの多様なアプローチ方法を身につけるための勉強会を開催することで、イベントの企画立案に生かし、自分たちの活動の幅を広げていきたいです。



STEP2
PROJECT
5

桜丘小学校学習支援プロジェクト 実際の教育現場で子どもたちの 学習をサポート!

- ◆ **リーダー**
文学部 人間関係学科
3年 財津 梨花
- ◆ **プロジェクト人数**
6名
- ◆ **活動開始時期**
2017年4月～
- ◆ **活動頻度**
月に9～10時間程度
※学生の授業スケジュールに合わせて活動日の調整を行い、それぞれの都合の良い曜日・時間帯に活動します。
- ◆ **連携・受入団体**
北九州市立桜丘小学校
- ◆ **主な活動場所**
北九州市立桜丘小学校
- ◆ **こんな人におすすめ!**
・教員免許の取得を目指している人や将来教員になりたい人
・子どもとかわることが好きな人
・やりがいのある活動がしたい人
- ◆ **今年度の活動実績**
・授業への参加を通じた学習支援活動
・小学生を対象にした「キャリア教育」授業の実施



小倉北区の桜丘小学校にて、児童の学習支援を行っています。主な活動は、各教室で行われている実際の授業に参加し、AT(アシスタント・ティーチャー)として、子どもの学習理解をサポートする役割を担っています。また、その他の活動として、特別支援学級での学習支援活動や、小学5年生を対象にした進路(高校・大学)に関する特別授業「キャリア教育」を開講しています。

◆ プロジェクトで活動する学生の声

普段の活動では、授業が円滑に行われるように子どもたちを様々な面でサポートしています。今年度は「キャリア教育」という進路に関する授業の内容も作成しました。このような活動の中で子どもたちから笑顔で「ありがとう」と言ってもらえることが、活動の原動力になっています。

今年度の活動の内容と成果

行動制限の緩和により、今年度は1年を通して小学校を訪問でき、前年度よりも子どもたちとたくさん関わることができました。主にATとして各教室での授業に参加し、子どもたちの学習支援に尽力しました。その他、運動発表会や芋掘り、卒業式等の学校行事にも参加し、様々な形で子どもたちと交流しました。

今年度の最も大きな成果として、小学5年生を対象にした「キャリア教育」を再開することができた点が挙げられます。計画を立てる際、今年度のメンバーには、この事業への参加経験者がいなかったため、明確なイメージを持たないまま手探りで計画を立てなければならず、思うように進みませんでした。しかし、週に1回の定例会議を重ねることで、メンバー同士で意見を出し合い、協力して準備してきた結果、以前よりも良い企画にすることができたのではないかと思います。

活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

今後は、より自主性及び主体性を持って、プロジェクト活動に取り組みたいと考えています。授業にATとして参加することは継続しつつ、キャリア教育の授業における企画立案の経験を生かし、今後は子どもたちの勉強に対する苦手意識を払拭する「放課後教室」を3～5年生のいずれかを対象に開講したいと思います。授業時間内だけでは解決できない部分を、私たちがサポートすることで子どもたちが成長できるように励みたいと思います。



STEP2
PROJECT
6

『食』から学ぼうプロジェクト 楽しく食と健康の大切さを発信

- ◆ **リーダー**
文学部 人間関係学科
2年 馬場 明香里
- ◆ **プロジェクト人数**
12名
- ◆ **活動開始時期**
2016年4月～
- ◆ **活動頻度**
月に5時間程度
・ 毎週1回昼休みにミーティングを行います。(今年度は毎週月曜日)
・ 月1回程度で企画やイベントを行います。(調理実習、高血圧予防啓発イベントへの参加など)
- ◆ **連携・受入団体**
北九州市小倉南区役所保健福祉課
- ◆ **主な活動場所**
421Lab.
北九州市立北方市民センター
北九州市立志井小学校
- ◆ **こんな人におすすめ!**
・ 料理が好きな人
・ 食べることが好きな人
・ コミュニケーション力を高めたい人
- ◆ **今年度の活動実績**
・ 調理実習
・ マイ弁当デー
・ 青嵐祭での減塩豚汁の出店
・ 高血圧予防啓発イベントへの参加
・ 志井校区の住民の方々との話し合い(全2回)
・ SNSでの啓発活動



私たちは、地域社会との繋がりを大切に、食と健康について自発的に学習し、その成果を地域住民の方々や同世代の学生に伝えています。今年度から「小倉南区公認 KG-100 アンバサダー」に就任し、小倉南区保健福祉課との連携事業として高血圧予防啓発イベントへの参加、志井校区の住民の方々との話し合い等に取り組んでいます。その他、学内外における調理実習や SNSでのお弁当作りの推進にも取り組んでいます。

◆ プロジェクトで活動する学生の声

調理実習等を通してメンバー間の交流があり、イベントの際も協力して楽しく準備することができています。企画は少し大変だと感じる時もありますが、色々な立場や幅広い世代の人と関わることができるので充実感と達成感も大きいです。

今年度の活動の内容と成果

【調理実習】北方市民センターの調理室をお借りして調理実習を行いました。メンバーの調理スキルの向上やメンバー間の交流を目的として取り組んでいます。

【マイ弁当デー】月に1回お弁当を作り、ランチミーティングを行います。SNS用の写真撮影や、メンバー間の交流を目的としています。

【青嵐祭での減塩豚汁出店】北九大生への高血圧予防啓発活動の一環として、減塩豚汁を販売しました。1日で計60食を完売しました。

【高血圧予防啓発イベントへの参加】ほっとハート小倉南推進協議会が開催した「小倉南区健康・栄養相談」における血管年齢測定の実施や減塩コーナーブースの設置、長野緑地で開催された自治会イベント内で減塩クイズの実施を行いました。

【志井校区の住民の方々との話し合い】志井校区の住民の方々、ワールドカフェ形式で高血圧予防に関する話し合いを行いました。

活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

今年度も、コロナ禍前に実施していた健康ランド・食べ物ランド、あしはらピッコロ子ども食堂での活動を再開することができなかったため、子どもたちとの交流が乏しい1年でした。来年度こそは小学校での食育活動や子ども食堂を再開するために、受け入れ先の方々との関係性を再構築していきたいです。また、今後は421Lab.所属他のプロジェクトとのコラボにも力を入れ、幅広い活動を行いたいと考えています。



STEP2
PROJECT
7

子ども食堂応援プロジェクト 子どもたちが安心できる 居場所づくりを

- ◆ **リーダー**
経済学部 経済学科 2年 元藤 彩羽
文学部 比較文化学科 2年 野北 小夏
- ◆ **プロジェクト人数**
67名
- ◆ **活動開始時期**
2016年9月～
- ◆ **活動頻度**
＜日明＞第2、4週(水)17:00～
＜城野＞第3週(水)17:00～
＜大里南＞第1、3週(水)17:00～
＜足立＞第1週(火)17:00～
- ◆ **連携・受入団体**
日明元気もりもりハウス
城野子ども食堂ハッピー
絆キッチン
足立ウチヤマ子ども食堂
- ◆ **主な活動場所**
北九州市立各市民センター
(日明・城野・大里南・足立)
- ◆ **こんな人におすすめ!**
・ 子どもが好きで、楽しく活動したい人!
・ 継続して活動に参加できる人!
・ 自分で企画を立てて、子ども食堂を運営したい人!
- ◆ **今年度の活動実績**
・ 子ども食堂での定例活動
・ 年中行事に合わせた子ども食堂でのイベント(ハロウィンやクリスマス等)
・ 外部講師を招いた子ども食堂でのイベント(バルーンアーティストショー)
・ SNSにおける広報



子ども食堂応援プロジェクトは、北九州市内の子ども食堂を拠点とし、子どもたちに勉強を教えたり、子どもたちと一緒に遊んだりしています。みんなでご飯を食べることで孤食を防ぐとともに、子どもたちが楽しく、安心して過ごすことができる第3の居場所づくりを目的としています。現在は、4つの子ども食堂と連携して活動を行っています。イベントの企画や運営を通じて、子どもと関わりながら成長することができるプロジェクトです!

◆ プロジェクトで活動する学生の声

子どもたちは笑顔が可愛く、積極的に遊びに誘ってくれるので楽しく活動ができます。自分たちで考案した企画を子どもたちが楽しそうに遊んでいる姿に、日々やりがいを感じています。活動意欲の高いメンバーが多く、主体性のある人におすすめです。

今年度の活動の内容と成果

今年度は、感染症対策に気を配りながら、子どもたちが安心できる居場所づくりを心掛けました。同時に、プロジェクトメンバーの方向性を合わせることを意識しました。

月1回のミーティングでは、主に七夕やハロウィン、クリスマス等の年中行事に合わせたイベント企画について話し合いました。意見を出し合って遊びを考案したり、入念に事前準備を行ったりする等、子どもたちのみならず学生にも楽しんでもらえるように工夫しています。定例活動では、プラバンづくりやアイロンビーズづくり等を実施しました。ハロウィンでは、ピニャータ割りやお面づくり、クッキーのデコレーションづくり、クリスマスでは、ビンゴ大会やバルーンアーティストを招いてのショーを開催しました。

また、SNSを活用した地道な広報活動の成果もあり、多くの方々の協力を得ることができました。子どもたちの孤食を防ぎ、子どもたちが安心して過ごすことができる居場所を提供することができたと思います。

活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

今年度は子どもが勉強しやすい環境づくりや熱中して取り組めるような遊びの考案に注力しました。来年度は、他のプロジェクトとコラボをすることで活動の幅を増やしていくとともに、両プロジェクトが抱える悩みや課題を一緒に解決して、お互いの活動を盛り上げていければと思います。また、広報に力を入れることで子ども食堂の認知度を上げ、子ども食堂を知らないの方々にも知ってもらえるように努力したいと考えています。



STEP2
PROJECT
8

421Lab. いぬねこプロジェクト ワンちゃん、ネコちゃんは我々が守る

- ◆ **リーダー**
地域創生学群 地域創生学類
2年 児嶋 悠葉
- ◆ **プロジェクト人数**
30名
- ◆ **活動開始時期**
2015年11月～
- ◆ **活動頻度**
・ドッグカフェ「KATANODA」でのお散歩ボランティア
(毎日1時間程度、休日は除く)
・北九州市動物愛護センターへの訪問
(月に1回)
・班別ミーティング
(毎週火・木・金曜日の昼休み)
・全体会(不定期)
- ◆ **連携・受入団体**
NPO法人ドッグセラピージャパン
北九州市動物愛護センター
- ◆ **主な活動場所**
ドッグカフェ「KATANODA」
北九州市動物愛護センター
- ◆ **こんな人におすすめ!**
・動物が好き
・動物愛護について考えたい人
・犬・猫と触れたい人
- ◆ **今年度の活動実績**
・ドッグカフェ「KATANODA」でのお散歩ボランティア
・北九州市動物愛護センターへの訪問
・SNSでの啓発活動・譲渡対象猫の紹介
・青嵐祭でのチラシ配布
・北九州市動物愛護フェスティバルのサポート
・まち美化魅力向上プロジェクト
Clearとのコラボ企画



私たちは「人と犬や猫がより良く共生できる環境」の実現を目的に活動しています。犬や猫の殺処分問題の解決に向けて行政やNPO等が様々な取り組みを行っていますが、依然として殺処分がなされている現実があります。この現状に私たちは「学生としてできるアプローチ」に重きを置き、連携・受入団体と一緒に犬や猫を取り巻く問題を考え、学び、発信するという活動を行っています。

◆ プロジェクトで活動する学生の声

私は犬や猫が好きですが、それらを取り巻く問題についてほとんど知りませんでした。そんな中で421Lab.いぬねこプロジェクトに入り、犬や猫と触れ合いながら、ペットを飼うときのマナーや地域猫との関わり、また動物愛護センターについて知ることができ、犬や猫との共生を考えるきっかけとなりました。

◆ 今年度の活動の内容と成果

ドッグカフェKATANODAでのボランティア活動では、日々のセラピー犬の散歩やしつけ訓練のほかに、生後数日の赤ちゃん犬のお世話など、とても貴重な体験をさせていただきました。そうしたなかで、私達は動物を飼う責任や命の大切さについて学びました。

また今年度は、NPO法人ドッグセラピージャパンを受け入れ先とする「KATANODA班」と北九州市動物愛護センターを受け入れ先とする「愛護センター班」の2班体制とし、幅広い活動を行いました。とりわけ動物愛護センターでの取り組みは新たなものが多く、愛護センターの見学やセンターが行う啓発イベントへの参加、また譲渡対象猫をSNSで紹介するなど、幅広い活動ができました。動物愛護に関する知識を深めたり、殺処分をなくすための思いをさらに深くすることができました。

◆ 活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

今年度は昨年度からの課題だった班体制を整え、多くの新メンバーを迎えて楽しく活動することができました。ただ、活動のルーティン化によってミーティングへの参加率低下も見られ、プロジェクト内の活動意欲に差が見られるようになりました。来年度にむけては新たな企画を考えたり、各々が主体的に活動できるようにサポートしあうことで、より充実した活動ができるように頑張りたいと思います。



STEP2
PROJECT
9

「ブンガクの街北九州」発信プロジェクト 日常に文学を!

- ◆ **リーダー**
地域創生学群 地域創生学類
2年 柳瀬 萌
- ◆ **プロジェクト人数**
15名
- ◆ **活動開始時期**
2015年11月～
- ◆ **活動頻度**
週に1時間程度のミーティング、月に1回程度、週末にイベント等に参加
- ◆ **連携・受入団体**
北九州文学サロン
北九州市立子ども図書館
北九州市役所
- ◆ **主な活動場所**
学内
北九州文学サロン
北九州市立子ども図書館
小倉京町銀天街
- ◆ **こんな人におすすめ!**
・北九州市の地域の人との交流や、地域に根差した活動に興味がある人
・イベントの企画、運営をやりたい人
・文学作品や読書、北九州市にゆかりのある文学作品や文豪に興味がある人
- ◆ **今年度の活動実績**
・「とほほん市」への参加
・語り部参加
・古本回収ボックスを作成し、学内に設置
・おすすめの本紹介
・北九州文学サロンで小学生対象の読書感想文講座開催
・北九州市立子ども図書館「子ども読書の日」にて平和の駅運動プロジェクトと合同でイベント開催



私たち「ブンガクの街北九州」発信プロジェクトは、「北九州市を『文学』の街としてブランディングする」というコンセプトのもと、北九州市を盛り上げるために活動しています。実は、北九州市にゆかりのある文豪や文学作品はたくさんあります。それらの魅力を多くの人に広め、地域の人と「文学」を通して交流することを目指し、北九州市文学サロンや北九州市立子ども図書館の協力のもと、日々活動しています。

◆ プロジェクトで活動する学生の声

今年度は、多くのイベントに参加することができました。プロジェクトでの活動は、北九州市の文学の魅力を広めるとともに、自分たちの学びにも繋がります。読書感想文講座では、優しく楽しく教えることを心がけ、参加した子どもたちが喜んでくれた時は嬉しかったです。

◆ 今年度の活動の内容と成果

今年度は、地域の方と多く交流する機会があり、とても充実した活動を行うことができました。2022年8月に北九州文学サロンで今年初めて開催した「読書感想文講座」には、多くの方に来ていただき当日は満員となりました。参加者からの評判もとても良く、無事に活動が終わった時には達成感がありました。また、10月に行った北九州市立子ども図書館との合同企画は、平和の駅運動プロジェクトとコラボしての開催となりました。平和と文学がテーマのクイズラリーと、平和についての絵本読み聞かせを実施しました。初めてのコラボ企画ということで活動の幅を広げることができただけでなく、メンバーにとっても良い刺激となりました。また、イベントだけでなく、プロジェクトの公式SNSを活用して情報発信し、メンバーのオススメの本を紹介しました。「文学」の魅力を大学生ならではの視点で発信し、幅広い世代の方と交流することができました。

◆ 活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

今年度は、プロジェクト内の交流も活発になり、新しいことにたくさん挑戦することができた1年になりました。今年できた多くの「繋がり」を今後の活動にも生かしたいと思います。来年度は学内でも活動し、学部・学群生にも文学に触れ合う機会を提供したいと思っています。来年度も他のプロジェクトとコラボしたり、北九州市立子ども図書館との合同企画を行ったりして、より多くの人に北九州市の「文学」の魅力を発信したいです。



STEP2
PROJECT
10

TFT×KitaQ univ. プロジェクト 食事で世界を笑顔に!

- ◆ **リーダー**
文学部 比較文化学科
2年 入江 紗千
- ◆ **プロジェクト人数**
16名
- ◆ **活動開始時期**
2014年4月～
- ◆ **活動頻度**
毎週木曜日の昼休みなどにメンバー全員でミーティングを行っています。イベントを予定している時はミーティング以外の時間でも活動を行います。
- ◆ **連携・受入団体**
北九州市立大学生生活協同組合
- ◆ **主な活動場所**
北方キャンパス学生食堂
- ◆ **こんな人におすすめ!**
 - ・「食」を通じて国際貢献をしたい人
 - ・「食」に関する企画を計画して、世界の食の不均衡について考えたい人
 - ・SNSやポスター作成、ポップ作成などの広報活動してみたい人
- ◆ **今年度の活動実績**
 - ・学生食堂でのTFTフェアの開催
 - ・おにぎりアクション
 - ・cafe ippo.とのコラボカフェ
 - ・JICA九州訪問
 - ・TFT週間
 - ・LEARNING SPACE CANDLEでのCANDLE MARCHEへの出店
 - ・TFTという団体や活動をどのくらい知ってもらえているかの認知度調査



私たちは「食」を通じた国際貢献を目的として活動しています。主な活動内容は、北方キャンパス内の学生食堂で開催される TFT フェアで「TFT メニュー」を提供することです。また、学外の方とカフェを開いて自分たちが考案したメニューを販売する活動も行っています。活動で得た売り上げの一部は、発展途上国の子どものための給食代として役立てられています。「食を通じて自分たちにできることは何か?」と考えながら幅広い活動を行っています。

◆ プロジェクトで活動する学生の声

私たちは大学食堂での活動に加え、外部の方々との共同企画で開発したメニューをイベントで販売し、その売上の一部を寄付する社会貢献活動を続けています。私たちの活動によって少しずつTFTについて知る人が増え、国際貢献の輪が広がっていることを実感しています。

今年度の活動の内容と成果

今年度は定例的な活動に加え、新たな活動にも取り組みました。cafe ippo.との共同企画では、オリジナルレシピで作ったカレーピラフとアドロパインミーを店内メニューとして提供しました。同時に、売上の一部を発展途上国の子どものために寄付しました。また、店内にTFTの展示ブースをつくり、活動紹介や給食の効果についてまとめたポスターを掲示しました。クイズの参加者にはバナナシェイクのサービスを行い、私たち自身も楽しみながら認知度の向上に繋がる活動となりました。

また今年度も「おにぎりアクション」に参加しました。SNSでおにぎりにまつわる画像を投稿すると、1枚の投稿につき発展途上国の子どものための給食5食分に相当する100円の寄付ができるのがおにぎりアクションです。そこで私たちはInstagramで毎日投稿に挑戦し、合計32枚の画像を投稿することができました。TFT週間ではTFTの活動を紹介するポスターをInstagramに投稿し、TFTの広報活動にも力を入れることができたと思います。

活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

来年度はTFTフェアをはじめとする定例的な活動に加え、学外での活動にも力を入れていきたいと考えています。地域で開催されているマルシェへの継続的な出店や、大学の青嵐祭への出店も視野に入れながら、「TFTと言えばこれ!」といったメニューの考案とイメージの定着を図ってまいります。このように活動の幅を広げることによって、TFTとはどのような団体で、どのような活動をしているのかという認知度向上に繋がってほしいと思います。



STEP2
PROJECT
11

国際交流プロジェクト FIVA 国際交流で広げる異文化理解の輪

- ◆ **リーダー**
外国語学部 国際関係学科
2年 野田 蒔
- ◆ **プロジェクト人数**
49名
- ◆ **活動開始時期**
2016年4月～
- ◆ **活動頻度**
月に1日4～5時間程度の交流活動、毎週1回の定例ミーティング
- ◆ **連携・受入団体**
北九州YMCA日本語学院
公益財団法人北九州国際技術開発協力協会 (KITA)
- ◆ **主な活動場所**
北九州YMCA日本語学院
北九州市内及び近隣地域
- ◆ **こんな人におすすめ!**
 - ・外国人と交流したい人
 - ・学年を超えた活動をしたい人
 - ・企画・運営してみたい人
- ◆ **今年度の活動実績**
 - ・YMCAの留学生と月に約1度のペースで交流会
 - ・YMCAや留学生についての勉強会
 - ・ダンスワークショップ参加
 - ・YMCA多文化共生わいわい祭り出展
 - ・絆復興プロジェクトとの合同企画
 - ・本学国際教育交流センター留学生との合同街歩き企画
 - ・KITAの研修生との交流会



私たちは「多文化共生」をテーマとして北九州市に住む外国人との交流を主な活動としたプロジェクトです。北九州 YMCA 日本語学院の留学生との日本語での交流、北九州国際技術開発協力協会 (KITA) 研修生との英語での交流を通して、日本や北九州市についてより深く知ったり、互いの文化に触れたりすることができます。同じ地域に暮らす留学生たちの抱える問題を解消するお手伝いをしながら、多文化共生社会の実現に向けた課題解決に取り組んでいます。

◆ プロジェクトで活動する学生の声

交流を通して、異なる文化について学ぶだけでなく、留学生が北九州市で生活するうえで微力ながら力になりたいという思いが強くなりました。多様な国籍と幅広い年齢層の留学生から学ぶことは多く、互いの文化を学び、高め合うことができ、充実した活動を行っています。

今年度の活動の内容と成果

今年度は、昨年度に引き続きYMCAの留学生との交流に加え、留学生やYMCAについての勉強会を開催しました。日本語のレベルも様々な留学生に対して、メンバーそれぞれが伝え方や話し方、聞き方を考えながら、留学生一人ひとりと交流していきました。また、伝え方だけでなく、相手の文化や考え方を理解し、受け止めようとする姿勢を持ちながら取り組みました。今年度は企画立案や交流の運営方法を昨年度までとは変更し、新しい体制でプロジェクト活動を進めました。人数が多いことにより、企画運営に参加できないメンバーが多かったため、全メンバーでFIVAの活動ができるよう、縦割りの班編成を行い、班ごとに企画立案から準備まで一連のプロセスを担当しました。まだまだ円滑にいかず改善の余地もありますが、様々な側面においてFIVAに関わり、主体的に活動するメンバーが増えたのは収穫でした。

活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

これまで通りのYMCAとの交流に加え、勉強会やYMCA主催のイベントに出展する等、より多様な形で留学生や提携先と関わる事ができました。また、コロナ禍で中断していたKITA研修生との交流も再開することができました。今後も、北九州市に住む外国人と地域との橋渡し役として、留学生や研修生一人ひとりとのお出合いを大切に、活動に目的意識をしながらイベントを企画・運営していきたくと思っています。



STEP2
PROJECT
12

地域クリーンアッププロジェクト 楽しくごみ拾い!

- ◆ **リーダー**
法学部 政策科学科
2年 酒井 穂波
- ◆ **プロジェクト人数**
33名
- ◆ **活動開始時期**
2015年4月～
- ◆ **活動頻度**
毎月第2・第4水曜日
17時半から1時間程度ごみ拾い
- ◆ **連携・受入団体**
NPO法人greenbird
- ◆ **主な活動場所**
北九州市立北方市民センター
- ◆ **こんな人におすすめ!**
・大学生・社会人・中高生など
様々な人と関わりを持ちたい人
・人と話すのが好きな人
・ごみ拾いに興味がある人
- ◆ **今年度の活動実績**
・北方周辺地域での定例清掃活動
(毎月)
・小倉商業高校と小倉南高校との
コラボ清掃
・ハロウィン仮装清掃
・藍島海岸清掃活動
・来々軒北方店との協賛事業



地域クリーンアッププロジェクトは「楽しさと繋がりを大切に、アットホームな存在で、人の想いを形にする」を理念として活動しています。主な活動は大学周辺のごみ拾い清掃ですが、ハロウィンやクリスマスの時期には、仮装しながらごみ拾いする等、楽しみながら清掃しています。また、ごみ拾い活動を続けることで、「街を汚すことはカッコ悪いことだ」という気持ちを広めることを目指しています。

◆ プロジェクトで活動する学生の声

清掃活動への参加が強制ではないので、学校やアルバイトとの両立が可能! また、アットホームな雰囲気や仲良く会話しながらごみ拾いできるので楽しく! 良かったら、私たちと一緒にごみ拾いしてみませんか?

今年度の活動の内容と成果

今年度は毎月の定例清掃活動に加えて、新たなイベントを企画するなど様々なことに挑戦した1年でした。定例清掃活動は計30回行い、総勢100名近く(大学生以外の参加者も含む)の方に参加していただきました。大学生のほか社会人や高校生、そして様々なハンディーキャップを持った方にも参加していただき、幅広い世代の方々と交流する中で多様性を学ぶことができました。

また、この1年で特に力を入れたイベントは、小倉商業高校と小倉南高校とのコラボ清掃です。若者の環境問題に対する意識が低いことが課題であると考え、高校生や大学生が環境を意識した行動ができるようなきっかけづくりを目指しました。プロジェクトメンバーで一から企画し、2か月間の試行錯誤をもとに、総勢60名近くの参加者を集めることに成功しました。参加した高校生からは「楽しかった」「参加してよかった」等の声を沢山いただき、無事大成功に終わりました。

活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

来年度は、参加者が「また来たい」と思えるようなアットホームな雰囲気づくりに、これまで以上に力を入れていきたいと考えています。今年度新たに参加して下さった方々と続けて参加して下さっている方々に、来年度も参加していただくために、楽しみながらごみ拾いができる取り組みを行う予定です。また、他のプロジェクトとの交流イベントを企画し、ごみ拾いに参加して下さる人の輪を広げていきたいです。



STEP2
PROJECT
13

まち美化魅力向上プロジェクト Clear 「北九州ならではの」を活かして 「魅力向上」へ!

- ◆ **リーダー**
法学部 政策科学科
2年 島津 帆果
- ◆ **プロジェクト人数**
13名
- ◆ **活動開始時期**
2020年4月～
- ◆ **活動頻度**
月に8時間程度。
毎週火曜日のミーティング、
清掃活動等
- ◆ **連携・受入団体**
株式会社ミクニ
- ◆ **主な活動場所**
421Lab.
三萩野バス停
神嶽川
- ◆ **こんな人におすすめ!**
・北九州の魅力を知りたい人
・地域の人と北九州を盛り上げたい人
・自分たちで企画から実行までやって
みたい人
- ◆ **今年度の活動実績**
・週1回の定例清掃
・活動に関するSNS投稿
・株式会社ミクニとの合同清掃
・地域の方との神嶽川清掃(月1回)
・421Lab.いぬねこプロジェクトとの
コラボ企画(北九州動物愛護セン
ター訪問)
・青空学プロジェクトとのコラボ企画
(志井川清掃)



私たちのプロジェクトは、北九州市の魅力を向上させることを目的としています。清掃や効果的なSNSの活用、地域交流の視点から、市民に魅力を感じてもらうための策を考え、挑戦しています。このプロジェクトの特徴は、地元企業の大きなサポートを得ながら活動している点です。今年度は、ミーティングに参加していただいたり、合同清掃を実施したりしました。コロナ禍の行動制限も緩和される中、活動の幅を広げていけるよう日々頑張っています。

◆ プロジェクトで活動する学生の声

先輩との繋がりや他学部の友だちを作ることができました。また、地域交流も目標のひとつにしているため、地域の方とも関わる機会がたくさんあります。ミーティングを通して、聞く力や伝える力も鍛えられ、企画力や想像力、主体的に行動する力も身に着きました。

今年度の活動の内容と成果

毎週の定例ミーティングは欠かさず行い、目標を確認し合ったり、新しい活動を模索したりしました。三萩野バス停周辺の清掃を週1で行い、地域の方からの温かい声や差し入れ等、活動して良かったと嬉しく思います。昨年度の後期から月に1回継続して参加している神嶽川の清掃は、地域と交流できる貴重な機会であり、とても充実した活動になっています。

また、421Lab.いぬねこプロジェクトと北九州動物愛護センターに行き、清掃や散歩の手伝いをしたり、青空学プロジェクトと志井川を清掃したり、年間を通して他のプロジェクトとの連携が充実していました。それぞれの活動理念と、私たちの活動理念を両方踏まえた、とても実りある活動ができたこと実感しています。

また、連携先であるミクニの社員の方々にも、活動に参加していただく機会があり、企業と密接に関わることができる、このプロジェクトの魅力を生かした年になりました。

活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

来年度に向けては、北九州市の魅力向上に貢献するという最終目標のもと、「清掃」「SNS発信」「地域交流」の3つの軸を定めました。清掃では、今年度、他プロジェクトとの交流を通じて、清掃活動をする経験ができたので、今後はもっと規模を広げていきたいと考えています。SNSでは、Instagramをさらに活用して、より多くの人に私たちの活動を知ってもらえるよう頑張っていきたいです。地域交流では、河川清掃等今までの活動を継続し、地域の方々との関係をさらに深めていきたいです。



STEP2
PROJECT
14

青空学プロジェクト 「環境」から考える北九州市の 今と未来

- ◆リーダー
法学部 政策科学科
2年 佐伯 朱音
- ◆プロジェクト人数
11名
- ◆活動開始時期
2016年～
- ◆活動頻度
毎週水曜日昼休みに定例ミーティング
- ◆連携・受入団体
NPO法人里山を考える会
- ◆主な活動場所
学内
北九州市環境ミュージアム
- ◆こんな人におすすめ!
・環境問題に関心がある
・地域にでて様々な人と交流しながら活動したい
・企画を一から発案・運営したい
- ◆今年度の活動実績
・Share!東田まつり×里山トラスト
会議に参加し竹を伐採
・岩屋海岸清掃
・東田まつりにてインタビュー
・昨年作成した絵本を用いた小学生向けワークショップの実施
・エコライフステージ運営補助及びステージ対談に出演
・志井川清掃 (clearコラボ企画)



私たちは北九州市の環境問題について、学生の視点からアプローチを考え、実践することで解決への糸口を探る活動を行っています。今年度は「ごみ問題」に焦点を当て、リサイクルに適したごみ箱の製作を試みました。北九州市にとどまらず、地球全体の未来に目を向け、公害問題やSDGs 達成等、環境の分野から物事を捉え、行動していくことを目的としています。

◆ プロジェクトで活動する学生の声

今年度は、環境保護活動に従事する方々とたくさん交流する機会があり、新たな視点と知識を得ることができました。既存の活動ではなく自分たちで考えて実践していくため、難しさを感じる時もありますが、とても面白い活動であると日々感じています。

今年度の活動の内容と成果

今年度は、ごみ問題に焦点を当て、ポイ捨て防止そしてリサイクルに適したごみ箱の製作を目標に活動を始動しました。まず北九州市におけるごみの歴史や現状を調べ、学内でインタビューを行い、ごみ捨てに関する意識調査を実施しました。それらの結果を踏まえ、環境保全活動に尽力されている里山を考える会とごみ箱作成に向けてディスカッションを行い、過去の北九州市の取り組みを教えていただいたり、意見交換を行ったりしました。その結果、維持や管理等の課題をクリアできず、ごみ箱を作成しない結論に至りましたが、今後は新たな形で、ごみ問題に対してのアプローチを模索し、実行していきます。その他、里山を考える会の協力により、様々なイベントに参加する中で知識を蓄えるとともに、昨年作成した絵本を用いて小学生への環境教育や清掃活動を実施しました。様々な取り組みや考え方があることを体感し、環境問題が多岐にわたることと深刻さを痛感しました。

活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

今年度は、新たな人との繋がりとたくさんの気づきを得られた年となりました。来年度は今一度、青空学プロジェクトの原点に立ち返り、目的を明確にしたうえで、今年培った知識や人との繋がりを生かして私たちにできることを考え、実践したいです。環境問題を自分事として捉えてもらえるように啓発活動も行いたいと思います。今年度は自主的な活動に乏しかったため、来年度は議論を活発に行い、メンバーの意見を尊重して、よりアクティブに活動していきたいです。



STEP2
PROJECT
15

平和の駅運動プロジェクト 戦争の記憶を風化させないために 私たちができること

- ◆リーダー
文学部 比較文化学科
2年 三澄 紗生
- ◆プロジェクト人数
3名
- ◆活動開始時期
2011年4月～
- ◆活動頻度
週1回のミーティング、不定期(月1回目安)で各地に出向いて平和学習
- ◆連携・受入団体
北九州市立西小倉小学校
北九州市立葛原小学校
長崎市立城山小学校
平和のまちミュージアム
- ◆主な活動場所
北九州市、長崎市
- ◆こんな人におすすめ!
・平和活動に興味がある人
・企画を一から発案し、運営してみたい人
・大学でかけがえのない仲間と出会いたい人
- ◆今年度の活動実績
・北九州市立西小倉小学校での平和学習
・平和のまちミュージアムでのボランティアガイド
・北九州市立葛原小学校での平和学習
・長崎市立城山小学校にて、児童とともに平和交流イベントを開催
・平和学習や西小倉小学校からの千羽鶴贈呈、太鼓演奏
・長崎大学にて、核兵器廃絶長崎連絡協議会との交流
・ブンガクプロジェクトとのコラボイベント開催
・北九州子ども図書館にて平和資料展示コーナー、クイズラリーの実施
・兵士・庶民の戦争資料館訪問



平和の駅運動プロジェクトは、戦争の記憶の風化とそれに伴った平和への意識の希薄化を問題と考え、若者を中心とした「戦争の記憶風化の防止」「平和の再考」を目標として活動しています。具体的には、北九州市内の学校での平和学習や、北九州市及び長崎市各地での小倉祇園太鼓演奏等、広く市民と平和を考える場を共有する活動を提供しています。

◆ プロジェクトで活動する学生の声

このプロジェクトに入って、平和に関するたくさんの知識を学ぶことができました。学生主体で企画立案したものを実行していく中で「今までに見たことがない取り組みで面白い」等のお褒めの言葉をいただき、大変嬉しかったです。またメンバー全員とても仲が良く、明るい雰囲気であることも魅力です!

今年度の活動の内容と成果

今年度は「より多くの関係先と繋がる」ことを目的に、平和学習を提供する学校の新規開拓、新設された北九州市・平和のまちミュージアムとの関係構築、「ブンガクの街北九州」発信プロジェクトとのコラボイベントの開催、様々な資料館への訪問・見学等、多くの人と繋がることができました。これらの活動を通じて得られた学びはとても大きなものでした。平和学習では「今は本当に平和なのか?」という視点より、今もなお、核兵器を持った国は世界に存在する事実や、SNSから発生するいじめ問題等、平和とは言い切れない現実を痛感しました。これらの事実を学ぶことで「今は平和ではない」という認識を児童に持ってもらい、「平和ではない今」をどうすれば平和にできるのか、というネクストアクションを考えてもらいました。SNSから発生するいじめ問題等、身近にある平和ではない事実を学ぶことで、平和をより自分事として考えてもらうきっかけになったと思います。

活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

今後は、今年度新たに関係性を構築した団体や施設と共同企画の実施を通じて、さらに強固な繋がりにしていきたいと考えています。また、インスタグラムやツイッターなどのSNSを通して、より多くの人に平和を身近に感じてもらい、平和について考えてもらえるように発信をしていこうと考えています。たくさんの学びを得ながら「楽しく」活動できるように尽力します。



STEP2
PROJECT
16

北九州市立大学 BBS 会 子どもたちの非行予防や更生支援を 学生目線で

- ◆ **リーダー**
地域創生学群 地域創生学類
3年 三浦 千紘
- ◆ **プロジェクト人数**
18名
- ◆ **活動開始時期**
2014年6月～
- ◆ **活動頻度**
月に6～8時間程度
毎週月曜日にミーティング
- ◆ **連携・受入団体**
保護観察所
児童養護施設
ファミリーホーム
- ◆ **主な活動場所**
学内
保護観察所

- ◆ **こんな人におすすめ!**
 - ・福祉や教育に興味がある人
 - ・子どもたちと関わることが好きな人
 - ・人の心に寄り添う活動がしたい人
- ◆ **今年度の活動実績**
 - ・保護観察所での勉強会
 - ・子どもたちに向けたスポーツイベントの開催



BBS (Big Brothers and Sisters) は、全国に拠点のある非行少年等の更生支援や非行防止活動を行う団体です。本プロジェクトはその中の一学域として、北九州市近郊の非行少年や不登校、里子、養護施設で暮らす子どもたちを対象に様々な活動を行っています。

主な活動には、保護観察所で行われる子どもたちの支援に関する勉強会への参加や、スポーツフェスティバルの開催等があります。

◆ プロジェクトで活動する学生の声

最初は非行少年やその他の様々な事情を抱える子どもたちにどう向き合っていけばよいか不安でした。しかし、保護観察所での勉強会やその他の活動を通して知識・経験を身に付けることで、自分なりの向き合い方、自分にできることを見つけることができました！

今年度の活動の内容と成果

今年度に行った活動は、保護観察所での勉強会と子どもたちに向けたスポーツイベントの開催です。保護観察所での勉強会では、「少年の司法福祉」「更生保護制度」について学びました。また、BBSで活動を行っているうえで必要な知識の伝達や疑問点を解決する機会を定期的に設けているため、勉強会は毎回、メンバーにとって大変有意義な時間となっています。スポーツイベントは本プロジェクトが主催するため、企画立案から事前準備、当日運営に至るまで、全て自分たちで行います。一緒に身体を動かしながら子どもたちと交流することで、子どもたちとの信頼関係が構築でき、学年や性別を問わず、メンバー同士の活発なコミュニケーションも図ることができました。また、このイベントを含めたBBSの活動は他大学と協働して行うことも多く、イベントの開催に向けた共同作業や情報共有等を通して幅広い知見を得ることができ、多くの人と交流が深まることも活動の魅力です。

活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

今年度、スポーツフェスティバル終了後に行った反省会では、各プログラム内容や進行、子どもたちへの声掛けの仕方等の改善点がメンバーから出てきました。この反省を踏まえて、次回のスポーツフェスティバルを子どもたちにとってより良いものへと進化させていきたいと考えています。また、非行少年等への学習支援や他大学からのイベント参加等の依頼にも積極的に応えていくことで、さらに充実した活動を行ってまいります。



STEP2
PROJECT
17

421Lab. 英語で遊ぼうプロジェクト 英語と異文化理解を子どもたちと 学ぶ

- ◆ **リーダー**
文学部 比較文化学科
2年 早間 美海
- ◆ **プロジェクト人数**
11名
- ◆ **活動開始時期**
2021年4月～
- ◆ **活動頻度**
毎週月曜日の昼休みにミーティング
月に2回ほど子どもたちとの交流
- ◆ **連携・受入団体**
コラボキャンパスネットワーク
- ◆ **主な活動場所**
学内

- ◆ **こんな人におすすめ!**
 - ・子どもと関わるのが好きな人
 - ・英語・異文化理解に興味がある人
 - ・ものづくりが好きな人
- ◆ **今年度の活動実績**
 - ・北方キャンパス内中庭での子どもたちとの交流 (毎週水曜)
 - ・コラボキャンパスネットワーク主催の夏祭りへの参加



このプロジェクトでは、未就学児を対象とした英語や異文化理解に触れる活動を行っています。クリスマスやハロウィン等、季節のイベントに絡めた企画や、提携している団体の主催する夏祭りに、子どもたちが魚釣りやコマで遊べるブースの出店等もを行っています。また、現在は英語や諸外国の文化を学ぶことのできる仕掛け絵本の作成に取り組んでいます。さらに、来年度からは他のプロジェクトとの協働企画も計画しています。

◆ プロジェクトで活動する学生の声

私たちのプロジェクトでは、昼休みや空きコマに子どもたちと直接関わることでできる機会があります。毎回の活動で英語や異文化理解に関する新しい発見や試行錯誤の連続で、学びの多い充実した活動となっています。来年度は活動拠点がさらに広がるのでとてもワクワクしています！

今年度の活動の内容と成果

新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、前年度までの活動が大きく制限されてしまいました。しかし、今年度からの新たな連携先であるコラボキャンパスネットワークの協力もあり、子どもたちと関わることでできる機会を得ることができました。主な活動としては学内で定期的開催されているミニパークに参加し、子どもたちと交流することです。1～3歳の子どもたちが多いので、プロジェクトの趣旨でもある英語を使った活動は満足にできませんでしたが、夏祭り等のイベントに参加することで、活動の幅を広げることができました。また、自分たちが考えた企画で子どもたちに楽しんでもらうことができたことで、達成感や新たな発見もあり、充実した活動となりました。

来年度に向けて、現在、英語で紙芝居を作る企画を進めています。さらに、他のプロジェクトとも交流しながら、たくさん子どもたちと一緒に楽しめる企画を実施していきたいです。

活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

今年度は1～3歳の子どもたちを対象に活動してきたので、英語を上手く活動に取り入れることができませんでした。来年度は他のPJと合同企画を行うことで、英語を使った活動を増やしていきたいです。また、活動拠点の拡大に伴い対象年齢も幅広くなるため、子どもたちの年齢に合わせた企画を行えるように準備を進めていきたいです。また、コラボキャンパスネットワークの子どもたちも一緒に楽しめる英語・異文化理解教育に関する活動にも引き続き力を入れていきたいです。



STEP2
PROJECT
18

421Lab.+TAP SDGs Community SDGs を通じて地域活性化を

- ◆ **リーダー**
地域創生学群 地域創生学類
3年 大友 天
- ◆ **プロジェクト人数**
8名
- ◆ **活動開始時期**
2021年10月～
- ◆ **活動頻度**
月に1回2時間程度
(曜日は決まっていません)
- ◆ **連携・受入団体**
株式会社TAP
- ◆ **主な活動場所**
学内
+TAP北九州 (セントシティ7階)
- ◆ **こんな人におすすめ!**
 - ・SDGsに興味がある人
 - ・自分で企画を考えることが好きな人
 - ・企業と関わりたい人
- ◆ **今年度の活動実績**
 - ・株式会社ヤギシタとの大豆ミートの活用に向けた商品開発
 - ・株式会社ビッグベアーズフーズサービスとのコラボ企画開発



SDGs (Sustainable Development Goals) とは、持続可能な社会を築くために2030年までに達成すべき17個の開発目標のことで、現在世界中で様々な取り組みが行われています。本プロジェクトは、SDGsを推進することを目的として、北九州市のSDGsに取り組む様々な方々と連携しながら活動を行っています。また今年度からは、新たに「食」に焦点をあて、市内各企業と協働してSDGsを広めています。

◆ プロジェクトで活動する学生の声

大豆ミートの市場調査や商品開発など今まで経験したことがなかったことに取り組むことができ、難しかった反面、楽しさややりがいも多くありました。特に企業と深く関わることができたというのは、とても良い経験になったと思います。

今年度の活動の内容と成果

“SDGs Community” を冠とするプロジェクトとして今年度は活動人数が少ないながらも、主に2つのことに取り組みました。

1つ目は、ハムやソーセージ、ベーコン等の食肉加工・製造・販売を事業内容とする地元企業と共同で大豆ミートの活用に向けた商品開発を行ったことです。学生による市場調査の結果を踏まえ、新商品開発に向けた意見交換を行いました。

2つ目は、同じく市内でピザのデリバリーや冷凍通販事業等を展開する企業と協力してピザの商品開発企画に関わったことです。まず私たちが学生の発想によるSDGsと関連させたピザを考えました。それを多くの方からのアドバイスをもとにブラッシュアップし、満足のいく商品案を先方に提案することができました。

今年度から活動内容が大きく変わり新たなことにも挑戦したことで、プロジェクトとしても新たなことに取り組む力が身に着いたのではないかと思います。

活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

今年度は新たに大豆ミートの市場調査、商品開発等に取り組みました。商品化には時間がかかることと目に見える形として残せませんでした。今後は実際に大豆ミートを用いた商品を学内の学生食堂で提供したり、企業とのコラボ企画を商品化したりと、自分たちで考えたアイデアを実現したいと考えています。また、そのためには活動人数を増やす必要があるため、新たなメンバーの勧誘も頑張りたいと思います。



STEP2
PROJECT
19

北九大もったいないプロジェクト 楽しく解決! 北九大の“もったいない”

- ◆ **リーダー**
外国語学部 国際関係学科
3年 飯干 すずか
- ◆ **プロジェクト人数**
7名
- ◆ **活動開始時期**
2022年4月～
- ◆ **活動頻度**
週1回全体ミーティング
(2022年度は毎週木曜日)
空きコマ
夏休み(4日程度)
- ◆ **主な活動場所**
学内
- ◆ **こんな人におすすめ!**
 - ・SDGsや環境問題に関心がある人
 - ・学校の課題解決に携わってみたい人
 - ・楽しく充実した課外活動をしてみたい人
- ◆ **今年度の活動実績**
 - ・節電呼びかけ
 - ・大木町研修
 - ・「もったいないかさ」作成・設置
 - ・J:COM北九州生放送出演
 - ・ダンボールコンポスト(実験的)
 - ・弁当容器回収促進カート・ボード作成・設置
 - ・廃棄自転車撤去
 - ・「0円キッチン」上映会協力
 - ・SNS運営



北九大もったいないプロジェクトは、学内から「もったいない」を減らし、なくしていくための活動をしています。SDGsの達成目標の中に含まれている「つくる責任 使う責任」に特に焦点を当てた活動で、環境問題に特化した活動を行なっています。学内に溢れている「もったいない」を解決するために、メンバー同士で積極的に意見を出し合い、話し合いを重ね合いながら実践を通じた課題解決を行なっています。

◆ プロジェクトで活動する学生の声

学年に関係なく、メンバー一人ひとりが積極的に意見を出し合うことができるプロジェクトです。環境問題やSDGsへの関心が高まります! 様々な活動に自分たちで取り組むことができ、積極性や主体性も養われます。

今年度の活動の内容と成果

今年度からの新規プロジェクトとして、手探りながらも積極的に行動し、とても充実した活動を行うことができました。メインの活動となった「もったいない かさ」の製作・設置では、夏休みや空きコマを有効活用し、学内に放置されていた廃材で傘立てを製作し、また学内で放置され、廃棄処分されるはずだった忘れ物の傘の再利用を行いました。実際に利用した人から「役に立ちました」等、嬉しい声もたくさん聞くことができました。

学内で販売されている弁当容器のリサイクル促進のため、現状調査や周知のためのボードや容器回収カートの製作・設置等の実践的な活動も行いました。その他、プロジェクトとして充実した活動をしていくための定例ミーティングや取材対応等を含め、メンバーそれぞれが積極的にプロジェクトの活動に取り組むことができ、新規プロジェクトながらJ:COMチャンネル北九州の「LIVEニュース」に出演させていただくことができました。

活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

今年度と同様に、メンバーが学内で問題となっていることを発見し、話し合いや実践を通じた積極的な活動を行いたいです。また、SNSの運営にも力を入れ、私たちの活動を学内外問わず多くの方に知ってもらい、将来的には「北九大と言えば、もったいないプロジェクト」と言われるような活動にしていきたいと考えています。メンバーの不足から実践まで辿りつけなかった活動にも挑戦していきたいと思っています。



STEP2
PROJECT
20

KITAG Kampus SDGs 10年後の北九大をSDGsでより豊かに

- ◆ **リーダー**
地域創生学群 地域創生学類
2年 多羽田 伊乃里
- ◆ **プロジェクト人数**
15名
- ◆ **活動開始時期**
2022年4月～
- ◆ **活動頻度**
月1回程度
グループごとにミーティングを行います。
- ◆ **連携・受入団体**
株式会社タカギ
株式会社寿ホールディングス
- ◆ **主な活動場所**
学内
- ◆ **こんな人におすすめ!**
・SDGsに興味がある人
・大学生活を送る中で何かアクションを起こしたい人
・北九州市立大学をより良くしたいと感じる人
- ◆ **今年度の活動実績**
・SDGs探検隊
・図書館展示
・学内への給水器設置
・給水器に使用する竹の伐採
・ねえねえ、話そう!
Christmas ver.



私たちは学内のSDGs文化の醸成を目的に活動しています。「10年後の北九大はどうあるべきか?」「自身の大学や大学生活をどのようにしたいか?」という問いに、SDGsの観点を生かしながら、学生自らがアクションを起こすことを重要視しています。現在は、①統括広報班、②みず色PJ(学内に無料給水器を設置して利用促進を目指す活動)、③ねえねえ、話そう!PJ(キャリアや多様性理解について学生間で気軽に話していく活動)の3グループに分かれて活動しています。

◆ プロジェクトで活動する学生の声

他学部生や教職員と話す機会、企業や団体の話を直接伺う機会に恵まれました。この活動を通して、様々な人と話し、考えることはとても貴重で重要な経験だと実感しました。また、何かやってみようという人は、それを実現するきっかけになると思います。

今年度の活動の内容と成果

今年度の主な活動は、以下の4点です。
【SDGs探検隊】チームに分かれて、本学に関する「SDGsな」取り組み事例などを取材しました。計5つの団体・取り組みについて取材したものをまとめ、それをプロジェクト全体で共有しました。
【図書館展示】「統括広報班」にて、SDGs探検隊のチームごとの取材記録とプロジェクト紹介資料を作成し、図書館に展示しました。
【学内への給水器設置】「みず色PJ」では、学内のペットボトルゴミを減らし、全ての人々が安心して、美味しい水を手に入れることができるように、学内に浄水ウォーターサーバーを設置することに向けて活動しています。
【ねえねえ、話そう! -Christmas ver.】12月15日に、日常生活で生じる違和感について気軽にお喋りするイベントを実施しました。「ねえねえ、話そう!PJ」では、事前にアンケートを行い、35名から違和感についての意見をいただきました。

活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

現在は2グループが継続して活動しています。「みず色PJ」は浄水ウォーターサーバーを設置し、その利用促進を、「ねえねえ、話そう!PJ」はイベントとアンケートの継続的な実施とその意見の反映を目指して活動を続けていきます。より多くの人に私たちの活動へ関心を持ってもらえるよう努めます。また、大学生活をより良くするための新たな活動にも取り組み、学生、教職員問わず、学内全構成員に興味を持ってもらえるような活動にしていきたいです。



STEP2
PROJECT
21

生理の貧困プロジェクト 生理を身近に、誰かのためになることを今しよう

- ◆ **リーダー**
外国語学部 英米学科
4年 山本 愛
- ◆ **プロジェクト人数**
10名
- ◆ **活動開始時期**
2022年4月～
- ◆ **活動頻度**
月に1回ほど月曜日または木曜日の昼休みにミーティングを行っています。
- ◆ **連携・受入団体**
特になし
- ◆ **主な活動場所**
学内
- ◆ **こんな人におすすめ!**
・様々な学部の人と仲良くなりたい方
・生理用品をみんなが当たり前に見える環境をつくりたい方
・学内や学外でイベント等の企画をして実行してみたい方
- ◆ **今年度の活動実績**
・北九大生理の日イベント開催(北方キャンパス内)
・オープンキャンパスで課外活動紹介についてコメント送信
・ユニセフ東アジア・太平洋地域「月経衛生週間」のウェブサイトへ活動報告
・大学広報紙「青嵐」掲載用活動報告
・「北九州ノコト」からの取材
・Christmas Drive
(回収ボックス製作、生理用品の寄付受付、学内での無料配布)



私たちのプロジェクトは、生理の貧困解消に取り組んでいます。まず、生理を取り巻く課題を把握し、その解決に向けた活動内容を検討します。生理について、女性だけでなく全ての人にとって身近に感じてもらうことや、正しい情報を提供すること、生理に対してのマイナスイメージを払拭することも重要だと考えています。最終的にはこれらの活動を通じて、ジェンダー等のSDGsに関する取り組みも行いたいと思います。

◆ プロジェクトで活動する学生の声

学内に誰でも必要な時に使えるナプキンがあったら良いなと思っていたので、教職員の協力を得て、実際にナプキンをトイレに設置することができました。一人でも多くの学生にとって過ごしやすい環境づくりができていることにやりがいを感じています。

今年度の活動の内容と成果

生理の貧困プロジェクトは、今年度から始まったばかりであるため、まずは2つの大きなイベントを通して認知度を向上させる機会を設けました。
その1つ目が「生理の日」です。6月が月経衛生週間であったため、6月23日を本学の「生理の日」として制定しました。初めて行うイベントだったこともあり、認知度を上げることを目標に学内でお菓子を配り、その結果、多くの学生に私たちのプロジェクトを知ってもらうことができました。2点目の取り組みが「Christmas Drive」です。421Lab.や図書館等、学内各所で生理用品の寄付を募り、集まったアイテムを学内で無料配布しました。以前行ったアンケートにより、学内にも生理用品を経済的な理由で買うことができなかつたり、買うことをためらったりする人が約3割いることを知り、今回のイベントを行うことにしました。たくさんの方々の協力により、生理用品の無料提供が実現し、多くの学生の助けになったと実感しています。

活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

プロジェクトとして達成すべき目標は次の5点です。①SNSを通して生理に関する正しい情報を継続的に発信していくこと。②生理に関する悩み事を匿名で募集し、解決すること。③生理用品をいつでも気軽に手に入れることができる環境をつくること。④生理に対して、よりオープンに話すことができる環境を作ること。⑤企業と連携して生理とSDGsを掛け合わせた取り組みの実現。



STEP3 Check

2022 地域活動発表会

2月13日に地域活動発表会を実施しました。地域活動発表会とは、421Lab.に所属する各プロジェクトが、1年間の活動内容や成果、今後の目標を発表しコンテスト形式で表彰を行うイベントです。本イベントは421Lab.学生運営スタッフのメンバーが中心となって、企画・準備から当日の運営まで行いました。

今年は3年ぶりの対面開催だったこともあり、学生のみならず、普段お世話になっている受入れ先企業や地域の方々にもご来

場いただき、大盛況でした。

各プロジェクト持ち時間7分のプレゼンテーションを行い、地域共生教育センター長や同窓会長等がそれぞれの活動を「課題解決に向けた取り組みとその成果」「プロジェクトとしての新たなチャレンジ」等の視点から審査しました。副賞として賞金が授与されるということもあり、それぞれ本番に向けてプレゼン資料作りや発表練習等、熱心に取り組んでいました。その成果を認められ、表彰されたプロジェクトは次のとおりです。

【日時】2023年2月13日(月)13:00～17:00

【会場】北方キャンパス本館 A-101 特大教室

最優秀賞 子ども食堂応援プロジェクト



優秀賞 地域クリーンアッププロジェクト



奨励賞 421Lab. 学生運営スタッフ



☆ビッグベアーズ賞 北九大もったいないプロジェクト



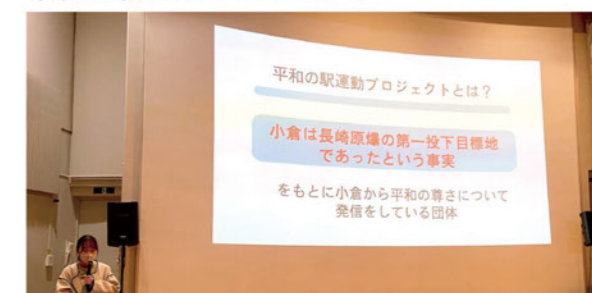
☆ATOMica賞 国際交流プロジェクト FIVA



☆大英産業賞 KITAQ キャンパス SDGs



☆i-design賞 平和の駅運動プロジェクト



☆大英産業賞 『食』から学ぼうプロジェクト



☆大英産業賞 421Lab. わくわくキッズプロジェクト



STEP4 Action

振り返り研修・リーダー交流会

学生の成長を促しつつ、プロジェクトの進捗状況を確認するために、421Lab. では、定期的に振り返り研修を実施しています。経験したことを単なる出来事や感動だけで終わらせないようにすることが目的です。また、学生運営スタッフが企画から当日の進行まで担当することで、ファシリテーション能力の向上にも繋がりました。

前期振り返り・後期スタートアップ研修

【日時】2022年10月15日(土) 10:00～11:35

2学期開始早々に全プロジェクトを対象に「前期振り返り・後期スタートアップ研修」を行いました。前期の振り返りでは、各プロジェクトの活動成果を発表し、普段は別々に活動している他プロジェクトの活動への理解を深め、参考にするとしました。

後期スタートアップ研修では、各プロジェクトにおける当初計画の進捗確認と見直しを主題としました。前期に立てた計画は、新型コロナウイルスの影響からか、十分な新入生勧誘活動を行えずメンバー数を確保できなかったり、受入れ先に活動を断られたりと、必ずしも計画通りに進んでいるわけではないからです。そのため、中にはモチベーションが低下しているプロジェクトもありました。

そこで、プロジェクト支援グループでは、こうした各プロジェクトからの不安や心配事の解消を試みようと研修内容を検討しました。各プロジェクトに「予算や人員等の制約を設けずに、とにかくやってみよう」と発表してもらいました。この研修に参加した学生にとって、自身のやってみようを言葉にし、また他のメンバーのやりたいことを聞くことで、刺激的な時間を過ごすことができたようです。最終的には、今年できるのか、あるいは数年後に実現可能なのか等を考えながら、「夢」を「具体的なイベント」に落とし込む作業まで行いました。このプロセスを経ることで、研修の最後に各プロジェクトから発表された後期の計画も、より具体的で、意義のあるものになりました。

この研修を通じて他のプロジェクトの活動を知ることで、自分のプロジェクトとの関連性を考えるきっかけとなりました。複数のプロジェクトを横断する、いわゆる「コラボレーション企画」のアイデアが生まれ、今年度の各プロジェクト活動の活性化に大きく貢献しました。

| プログラム |
|--------------------|
| 内容 |
| ①目的目標のパワーポイント(10分) |
| ②ワークシート(60分) |
| ③研修アンケートの記入 |

| 当日に使用したパワーポイント |
|---|
| <p>〈ワークシートの流れ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ①今後の活動でやりたいこと(15分) ②目標設定企画の振り返り(5分) ③②を踏まえて優先順位をつける(10分) ④今後の活動のスケジュール作成(15分) いくつかのプロジェクトに発表していただきます(10分) |



リーダー交流会

【日時】2022年12月3日(土) 10:00～12:00

各プロジェクトは、活動テーマも活動場所も異なっており、普段他のプロジェクトとの交流は多くはありません。こうした状況を打開し、421Lab. に所属するプロジェクトリーダー間の交流を促すため、プロジェクト支援グループが開催したのが「リーダー交流会」です。

当日の冒頭では、プロジェクトリーダーたちが打ち解けた雰囲気になるように「プロジェクト当てゲーム」を行いました。参加者は、ただ受動的にプロジェクトの説明を聞くのではなく、クイズという能動的な作業によって、前向きに、主体的に研修に臨むことができるように企画しました。

その後、各プロジェクトの悩みを皆で聞き合いました。悩みがあることを問題視するのではなく、悩みを一人で抱え込まず、皆で一緒に考える。それはあたかも「悩みを市場に出す」というイメージです。421Lab. の学生スタッフは、プロジェクトメンバーに対して細やかな支援を自主的に行っています。

この交流会を通して、実際にプロジェクト間のコラボ企画が生まれました。例えば「421Lab. わくわくキッズプロジェクト」は、実際に子どもたちに大工仕事を体験してもらう「子ども大工」の活動を行っていますが、そこで学んだ知識や技術を生かす場を広げることを模索していました。他方「子ども食堂応援プロジェクト」は、子どもたちに「食」以外の体験を提供したいと考えており、「子ども大工」を活動の中に取り入れることにしました。活動内容の拡充やウィークポイントの補完等、双方のニーズが一致し、より充実した活動体制が生まれました。

| プログラム |
|-----------------------|
| 内容 |
| ①PJリーダーさんのお悩み解決!【20分】 |
| 1-1 リーダーさんに聞いてみた |
| 1-2 PJ支援が考えてみた |
| ②グループトーク!【15分】 |
| ③フリートーク【30分】 |
| ④各PJ今後実施することを宣言!【10分】 |



| 当日に使用したパワーポイント |
|--|
| <p>【プロジェクト当てゲーム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①紙に3つプロジェクトの特徴を書く ・定例mtgの日程・人数・??? ・裏面に小さくPJ名を書く ②ジャッフルランダムに一枚引く ③みんなでこのプロジェクトのか当てる (この時該当プロジェクトはばれないように上手くふるまう) ④最後の二枚は同時にする |

| 目的 |
|---|
| <p>目的① PJごとのお悩み解決策を見つけ、活動の質を向上させる ただの悩みの詰めあい× 解決策をもったPJがない場合は、自分たちで考えて導き出そう!</p> <p>目的② PJリーダー同士でつながりをつくってもらおう コラボ企画に発展するかも!? たくさんのリーダーさんでつながりをつくりお互い刺激しあえる関係性を構築しましょう!</p> |



2022年度 トピックス 1

「環境ESD演習I」 フィールドスタディ (滋賀県びわ湖・京都市岩倉・総合地球環境学研究所)

地域環境課題を学ぶスタディツアー
—課題解決型と他者理解型の学び—

現地での活動内容 2022年7月1日(金)～5日(火)

- 7月1日(金) 新門司港⇒(フェリー船中泊)
- 7月2日(土) 滋賀県びわ湖フィールドワーク(インタビュー調査・意見交換)
⇒大阪港(泉大津)朝到着
 - ・湖族の里資料館にて堅田観光協会会長の講義
 - ・真野浜遊泳場にて、湖水浴体験&水草繁茂状況観察
 - ・貸農園見学
 - ・宿屋きよみ荘のご主人の水草繁茂に対する取り組みについてのお話
- 7月3日(日) 京都市岩倉フィールドワーク(インタビュー調査・意見交換)
 - ・岩倉川川掃除グループ活動への参加とグループ代表の講義
 - ・市内観光地のゴミ視察(八坂神社・丸山公園)
- 7月4日(月) 京都市岩倉フィールドワーク・総合地球環境学研究所にて講義
 - ・岩倉川散策(自転車)中村治氏の案内
 - ・総合地球環境学研究所 同位体測定に関する講義
 神戸港⇒(フェリー船中泊)
- 7月5日(火) ⇒新門司港 朝帰着



スケジュール

本プログラムは事前学習・現地実習・事後学習の3段階で実施しました。

1. 事前学習 (2022年4月～2022年6月、計6回)
 - 滋賀県びわ湖や京都市岩倉の環境課題、現地の課題解決の取り組みについての学習、学生の興味関心や課題意識の意見交換等
2. 現地実習 (2022年7月1日(金)～5日(火) 4泊5日 [船中2泊含む])
3. 事後学習 (2022年7月、計3回)
 - お礼状を兼ねた課題レポート作成
 - 今回のフィールドスタディにおける各受入れ先へのフィードバック (感想・企画提案)

地域環境課題を学ぶスタディツアー

今年度のフィールドスタディは、滋賀県びわ湖と京都市岩倉を対象としました。びわ湖では、湖における水草の大量繁茂に取り組んできたグループに、岩倉では地元の岩倉川の清掃活動に従事するグループの活動を視察しました。水草大量繁茂と河川清掃という相反する取り組みを「不要物=ゴミ問題」という大きなテーマで包括しました。ごみは、近代化の過程で量と質が変化してきたことや、昔のように循環すればよいという単純な話でもないことに気づいてもらうことも、このフィールドスタディの狙いでした。

さらに、他者理解型課題と課題解決型課題 (PBL) の2つの異なるタイプの課題を出しました。1つは、水草大量繁茂問題を解決してきた人々の活動に密着し、ボランティアに地域課題に向き合うマインドに触れ、理解することを目的としました。水草繁茂問題にかかわってきた宿泊先のご主人に協力を仰ぎ、「宿の料金の秘密を読み解く」という課題を出しました。参加学生は、自分たちで宿泊先の食事やアメニティ、貼り紙に隠された環境に関する宿のメッセージを読み取ることで学びを深



めることができました。2点目は、岩倉の川掃除に取り組むグループの悩みを聞き、その課題を解決することを目的としました。課題解決の足がかりとして、地域の歴史や文化についても学びました。これらの成果については後日、現地でお世話になった方々にフィードバックしました。

また、フィールドスタディ全体を通してインタビューや参与観察という文系的な調査だけではなく、環境状況を知る方法として、生き物や水・大気・岩石等の繋がりを理解することができる「同位体分析方法」という理系的な手法についても学びました。



参加学生のコメント

法学部 政策科学科2年 宇都宮 一花

滋賀ではびわ湖の水草繁茂問題、京都では地域コミュニティと精神医療史について学びました。環境ESDプログラムだからこそ普段訪れない場所に行き、その土地らしさを五感で感じ、様々な人と交流をするという貴重な機会だったと思います。山や川といった自然環境や社会的背景、思想など様々な要因が絡み合ってコミュニティができていくことを改めて認識しました。さらに、共にフィールドスタディに行った仲間と感想を共有したり、語り合ったりすることができ、学びを深めながらも楽しい時間を過ごすことができました。今回のプログラムを通して、地域に愛着を持ち、自発的に市民が活躍するコミュニティの形をどのように築いていくかに最も関心を持ったので、今後は文献や授業などを通して知見をより深めていきたいと思いました。

地域創生学群 地域創生学類2年 戸波 空土

今回のフィールドスタディに参加し、たくさんの良い経験ができました。びわ湖では、水草繁茂問題に対し地域の人々がどのように対応してきたのかを学び、また、びわ湖湖畔に位置する津市堅田の町の歴史についても併せて学びました。京都では、生活の場としての岩倉川と、観光地としての寺院や公園などのごみの現状について学びました。今回私が一番興味を抱いていたのは、観光地のごみ問題でした。京都は観光客をはじめ多くの人が集まる場所にもかかわらず、捨てられているごみがとても少ないということに気づきました。京都にごみが少ない理由は、地元の人による清掃活動だけではないと思いました。フィールドスタディ終了後に思ったことは、「整然とした場所ではごみを放置してはいけない心理が働く」ことです。これから様々なごみ問題を調べていきたいと思うきっかけとなりました。

地域創生学群 地域創生学類2年 長田 鼓美

今回の環境ESD演習を通しての一番の成果は、自分の知らなかった知識を得られたことだと思います。私に関心を持っていたのは、プラスチックゴミの削減といった日常生活のゴミ問題だったため、今回の演習のテーマであった水環境や河川のごみといった公共空間のごみについてはあまり関心を持っていませんでした。しかし演習に参加して新たな知識を得たことで、水環境や河川のごみについても興味をもつようになりました。現地では、びわ湖で実際に泳いで水草の現状を把握したり、湖岸で宿を営む方のお話を聞いたりしました。その営業者からは、「環境保護活動に対して、直接または間接的にお金を支払う」という考えを伺いました。びわ湖の水草の問題については知れば知るほど奥深く、日本の湖や川の水環境について、興味を持つきっかけになりました。これから、フィールドスタディで得た学びを日常生活のごみという分野にも応用して、これまで以上に深く考え、行動していきたいです。

地域創生学群 地域創生学類4年 片山 桃子

湖岸の清掃に取り組む宿主のお話や、河川清掃を実際に体験することで、水辺のごみ問題に関して深い学びを得ることができました。1日目に、びわ湖を視察した際には、昔は水草を畑のたい肥として使っていたが、今は水草にプラスチックなどのごみが絡んでいるため、肥料として使うことが困難になっていることを知りました。2日目の岩倉では、本来川は様々なごみが当たり前のように捨てられる場所で、そのごみをコイ等の川に住む生き物が食べ、必要な栄養を摂取していたことを知りました。ところが近代化が進み、従来の自然由来のものに加えて、化学物質を含むごみが増えてしまったことで、ごみが自然に帰らなくなり、川にごみを捨てる行為が問題となってきたことを学びました。これらのごみが生態系の破壊やマイクロプラスチック問題を引き起こしています。私は、「川はごみを捨てる場所」という認識が残っているとすれば、それを変化させていく必要性を感じました。京都と滋賀は私にとってなじみの薄い地域でしたが、現地の活動に参加し、お話を伺うことを通して、リアルにそして身近に感じることができました。

2022年度 トピックス 2

北九州市・フィリピン共和国ダバオ市 「環境姉妹都市締結5周年事業」 への参加

北九州市とフィリピン・ダバオ市は環境姉妹都市を締結しており、今年は締結5周年となりました。それを記念した事業が両国共同で開催され、そこに421Lab.も参加しました。2022年5月29日(日)にお互いの海岸で実施された清掃活動に加え、後日行われたオンラインシンポジウムにも421Lab.の青空学プロジェクトが本学代表として参加し、ダバオ市の大学生との情報共有や意見交換を行いました。

【海岸清掃活動】

日時：2022年5月29日(日) 9:00～10:30
場所：岩屋海岸
参加者：50名(北九州市立大学より39名(学生37名、教員2名)、市職員11名)
※岩屋海岸清掃全体では市民1,007名が参加
回収ごみ量：可燃ごみ1,240kg、粗大ごみ3,940kg



【ダバオ市大学生とのオンラインワークショップ】

日時：2022年6月17日(金) 14:30～17:00
場所：北九州市側・国際村交流センター2階会議室
ダバオ市・People's Park内のCENRO事務所より接続
参加者：北九州市・北九州市立大学
(421Lab.青空学、グリーンバード北方チーム)
ダバオ市・アテネオデダバオ大学



参加学生のコメント

法学部 政策科学科 2年 佐伯 朱音 (岩屋海岸清掃コメント)

今回の活動に参加したのは、私自身が421Lab.で環境に関わる活動をしていながらもなかなか現場に行けなかったのが、実際に海岸清掃をすることで理解を深めたいと思ったからでした。清掃活動では漂着ごみよりも人為的に捨てられたごみの方が多かったことに驚き、私たちが心がけることでごみを防げることに気が付きました。また私は海岸清掃への参加だけでなく、活動報告資料の作成や、ダバオの大学生とのオンライン意見交換会にも出席させて頂きました。意見交換会では、政策提案をしていたダバオの大学生の姿を見て大変刺激を受けました。

今回の活動では多くの気づきを得ることができたので、これからも綺麗な北九州市を守るために私たちにできることを実践し啓発を行っていきたくです。またフィリピンの大学生のように現状に課題意識を持ち、積極的な姿勢を忘れずにいたいと思います。



マネジメント研究科 歌 贈朝 (フィリピンダバオ市との共同清掃活動感想)

私が今回の活動に参加したきっかけは、海岸清掃という環境保護はとて有意義なことであり、さらに国境を跨ぐ共同活動に参加する機会はありません、貴重な経験になると思ったからでした。また、私は海岸清掃活動だけではなく、当日の活動の様子をまとめた動画作成や活動後のダバオ市とのオンライン報告会にも参加させて頂きました。環境問題のことをよく耳にしますが、ダバオ市の報告を通じてあらためてその深刻さを認識しました。それはこの綺麗な日本に住んでいる限り、わからないものでした。現在、環境問題の改善に向けてさまざまな提案が行われています。マイバックや水筒を持ち歩くといった個人でできるものがあります。私もそれを実践していきたくです。



2022年度 トピックス 3

高校生×北九大生 「ジェンダー問題」 探究学習プロジェクト

今年度、421Lab.は北九州市立男女共同参画センター・ムーブと協力し、ジェンダー問題について考える高校生の探究学習プロジェクトを実施しました。ジェンダー問題に関心のある市内4校の高校生29名と421Lab.で活動する学生13名が、それぞれの視点からジェンダーにまつわる課題を設定し、4ヵ月にわたって探究学習を行いました。11月12日(土)には活動の集大成として「成果発表会」を実施し、アンコンシャス・バイアスや社会の中での女性の役割、またLGBTQ+などの課題解決のために自らが行ったアクションとその成果について、100名を超える観客の前で発表を行いました。

実施期間：2022年7月16日(土)～11月12日(土)

1. キックオフワークショップ

概要：高校生と大学生の顔合わせ&レゴブロックを用いたワークショップ
日時：7月16日(土) 16:00～18:30
場所：ムーブ会議室

2. 探求学習

概要：7月から11月にかけて、大学生のサポートを受けつつ、各高校で探究学習を実施
場所：各高校およびオンラインにて

3. 成果発表会

概要：高校生による探究学習成果の発表
日時：11月12日(土) 13:00～15:40
場所：北九州市立大学

【参加高校と各チームの探究テーマ】

明治学園高等学校
「LGBTQ+に対する偏見をなくすために」
「すべての人が過ごしやすい環境づくり」
北筑高校
「LGBTQ+について ～多様性を尊重する世界の中へ～」
「女性が活躍できる組織と社会」
「ジェンダー問題 ～アンコンシャス・バイアスについて～」
西南女学院高校
「アンコンシャス・バイアス・ワークショップ」



参加学生のコメント

法学部 法律学科 3年 内山 山佳梨

今回の活動に参加したきっかけは、男女共同参画社会の実現について人権・法律・民間・行政の調和に関心を抱いていたからです。私は女性が活躍できる社会の実現を考えるために北筑高校の生徒5人とチームを組み、問いや課題を深めていきました。活動の過程では女性経営者とのトークセッションを企画したりして、世代間の壁を乗り越える試みにも挑戦しました。また、活動を通じてファシリテーションの知識や技能を学んだり、さまざまな立場の方々と実務的な調整をしていくことで大きな気づきも得ました。なにより、高校生と一緒に完成に向けて頑張ったことはかけがえのない経験となりました。これからもチャレンジする幅を広げ、多様化する社会にあらゆる視点で向き合い、行動していくことに、この経験を生かしていきたいと思っています。



地域創生学群 地域創生学類 1年 高群 ゆい子

中学生の頃からLGBTQに興味があり、高校生の時の探究学習でも同性婚に関する発表をしたという経験から、より多くの若い世代にLGBTQ+のことについて考えてほしい、またそこで私の経験が生かせるのではないだろうかという思いから、今回の活動に参加しました。ファシリテーターとして参加するなかで、実際に高校生とLGBTQ+について話してみたり、その思いを聞いてみると、一人ひとり様々な考え方があり、自分自身も学ぶことが多くありました。頭を柔らかく持っていたつもりでも、まだまだ考えとして「カタい」部分があると気づかされました。今回の活動で得ることができた考えや思いを今後も生かし、たくさんの人と交流をもっていきたいと思っています。



「これまでの地域活動からどんな影響を受けて、自分の将来にどう繋げているのか」
各プロジェクトで活躍する先輩の声です。



421Lab. いぬねこプロジェクト

地域創生学群 地域創生学類 3年 山波 郷華さん

① PJ活動に参加したきっかけ、動機

私がいぬねこプロジェクトに参加しようと思ったのは、動物が好きで、どんなことでもよいので動物に関わる活動がしたかったからでした。私は高校生の頃に捨て猫を拾った経験があります。ごみ箱で生まれたばかりの子猫を見つけたのですが、突然の出来事だったため、1日目は外で様子を見ることしかできませんでした。また、私の家では飼えなかったため、とてもやるせない気持ちになりました。ですが、やはりこのままではいけないと思い、捨て猫への対応について調べたり、友人を通じて引き取り先を探してみたりするなど、自分にできることをしました。その結果、友人の家に引き取ってもらうことができ、今でも元気な姿の写真が送られてきます。そういった経験もあり、大学で自分の興味のあることに挑戦できる機会があるなら動物関係のプロジェクトで活動してみたいと思っていました。

② 実際に実施した活動内容

私がいぬねこプロジェクトで行った活動は2つあります。1つ目はセラピードッグのお散歩ボランティアです。新型コロナウイルスが少し落ち着いた頃に、受け入れ先であるNPO法人ドッグセラピージャパン様から提案をいただき、2年生の5月から3年生の11月まで続けることができました。2つ目はSNSの運用です。2021年から受け入れ先と一緒に活動している北九州市動物愛護センターとともに動物愛護に関するSNSの投稿を始めました。いぬねこプロジェクトのSNSアカウントで動物愛護センターでの活動や保護犬・保護猫の情報等を週1回ペースで投稿しました。投稿を続けることでフォロワー数も増えてきています。

③ 活動してみたの感想、気づき、学び

私が2年間活動をしてきて感じたことは、プロジェクトの活動に対するモチベーションの重要さでした。動物愛護の問題はとてもシビアであり、かわいいという関わり方だけでなく、重い現実も受け止めて活動しなければいけない状況があります。そのため、プロジェクトのメンバーの中には、理想と現実のギャップを感じ、活動のモチベーションに影響が出てしまうことも多々あります。そうした中、私はリーダーとして、プロジェクトメンバーのモチベーションの維持につながるためのアプローチを考え続けました。例えば、受け入れ先ごとによるプロジェクトの班分けがあります。北九州市動物愛護センターもNPO法人ドッグセラピージャパンも動物愛護という目的は同じですが、活動内容に違いがあります。そのため、どちらの活動に興味があり、どちらの発展に寄与したいかをメンバーに自分で考えてもらい、参加できるようにしました。そうすることで各メンバーが意欲的に活動できる環境となり、メンバーのモチベーションも高まりました。調整はとても大変でしたが、特に重要な経験として印象に残っています。

④ 今回の活動を今後の大学生活、これからのキャリアなどにどう生かしたいか

私はいぬねこプロジェクトでの活動を生かし、より良い選択ができる社会人になりたいと思っています。現在、私は就職活動中で自己分析をする機会がありますが、いぬねこプロジェクトでの経験はとても生きています。社会人になると多くの選択肢に迷うこともあると思いますが、プロジェクト活動で培った課題の捉え方や適切な状況判断力を生かして、より良い選択をしていきたいと思っています。



421Lab. 英語であそぼうプロジェクト

地域創生学群 地域創生学類 3年 江口 千里さん

子どもとたくさん関わりたいという思いから、この活動に参加することになりました。プロジェクトを通じて、多くの子どもたちと楽しく活動することができました。昨年は地元保育園の子どもたちに簡単な英単語や英語の歌を通して外国語に触れてもらう機会を作りました。今年度は地域のNPOの方々と一緒に子どもたちと野外で遊んだり、夏祭りを開催して子どもたちを招いたりしました。どの活動も子どもたちが楽しそうに活動してくれたのでやりがいを感じましたし、子どもに対する知識や振る舞い方なども学ぶことができました。プロジェクト活動を通じて、相手がどのように感じるのかということ意識する大切さを知ることができ、それを実践に移していくことの重要性を学びました。これからの就活や就職後のキャリアにも繋げていきたいと考えています。



桜丘小学校学習支援プロジェクト

文学部 人間関係学科 3年 財津 梨花さん

桜丘小学校学習支援プロジェクトでは、小学校での実際の授業に参加して子どもたちの学びをサポートしてきました。また、休み時間や放課後にも子どもたちと交流しました。その時は先生としてではなく大学生として子どもたちに接し、より身近な存在に感じてもらえるように心がけていました。私がこのプロジェクトに参加したのは実際の教育現場で子どもたちとかわることができるという点に魅力を感じたからです。実際に活動してみると想像以上にやりがいのある活動だと思いました。現場ならではの学びを得られることは自身の成長にもつながっています。将来は子どもとかわることのできる仕事に就きたいと考えているので、桜丘小学校で得られたたくさんの学びを大いに役立てていきたいと思っています。



防犯・防災プロジェクト(MATE's)

法学部 政策科学科 3年 富松 玲雄さん

MATE'sの活動に参加したのは421Lab.の広報誌「FULL」を見たことがきっかけです。MATE'sが防犯・防災活動を実施しているのを知り、私も生まれ育ったまちの安全・安心を支えられるような存在になりたいと思い、このプロジェクトに参加しました。遊びながら災害について学んでもらう「あそぼうさい」や、小学生と一緒にまちを歩いて安全・危険な箇所を考えながらマップに落とし込む「地域安全マップづくり」、また小倉南警察署との連携活動など、地域に根ざした活動を実施してきました。活動を通じて防犯・防災の知識を身に付けることができただけでなく、地域のことも知ることができました。地域の方々との交流もでき、地域のために役に立っていることが嬉しかったです。今まで実施してきた活動は普段の生活にも結びついていると思うので、これまでの経験を活かしつつ、地域の防犯・防災に貢献していこうと思います。

「地域につながる自分をひろげる」

421Lab. 概要

2010年4月に北九州市立大学に誕生した『421Lab. (地域共生教育センター)』。

私たちの取組みの中心は「地域や学生が主役となる活動」です。地域の皆さんとの対話を繰り返し学生の活動の細やかなサポートを通して、地域貢献と人材教育の一翼を担っていきます。このような活動に取り組むことで、学生が地域につながり、自分をひろげることができます。今までになかった地域と大学の新しい関係が、ここからはじまっています。

421Lab. にはセンターの運営を支えている「学生運営ス

タッフ」がいます。ラボの運営を「学生の目線」からサポートすることで、学生が気軽に関わりやすい雰囲気を作っています。また、「地域活動に参加したい」、「何かやってみたい」という学生の相談に応えるため、学生運営スタッフ自身もプロジェクトに関わり、地域の課題や学生の役割等を説明できるように取り組んでいます。

その他にも、プロジェクト参加への第一歩となる「地域活動説明会」の企画・運営、イベントでの出展 PR などを行い、地域と学生とのつなぎ役として日々活動しています。



「地域活動のタイプ」について

地域の皆さんからお申し込みいただいた地域活動は、社会性や公共性（地域への貢献）、人材育成（学生への教育効果）などの観点から以下の3つのタイプに分けて、学生への周知や活動の広報などを行っています。また、これらの地域と

連携したプロジェクトの他、オープンキャンパスなどの学内活動を教育プログラムとして取り組んでいるプロジェクトもあります。

プロジェクト型

地域社会への貢献を目的とした長期的なプロジェクトでありチームを組んだ複数の学生が地域団体と協力して活動を行う。地域での活動を通じ学生自身も学びと成長を得られるよう、センターが教育的な指導・サポートを行う。

- 421Lab.学生運営スタッフ
- 防犯・防災プロジェクト(MATE's)
- 桜丘小学校学習支援プロジェクト
- 子ども食堂応援プロジェクト
- 「ブンガクの街北九州」発信プロジェクト
- 国際交流プロジェクト FIVA
- まち美化魅力向上プロジェクト Clear
- 平和の駅運動プロジェクト
- 421Lab.英語で遊ぼうプロジェクト
- 北九大もったいないプロジェクト
- 生理の貧困プロジェクト
- KITAQ∞『絆』復興応援プロジェクト
- 421Lab.わくわくキッズプロジェクト
- 『食』から学ぼうプロジェクト
- 421Lab.いぬねこプロジェクト
- T F T × KitaQ Univ.プロジェクト
- 地域クリーンアッププロジェクト
- 青空プロジェクト
- 北九州市立大学BBS会
- 421Lab.+TAP SDGs s Community PJ
- KITAQキャンパスSDGs

企画連携型地域活動

地域の様々な主体（行政・企業・NPO等）とともに、特定のテーマに基づく企画を立て、その実現を目指して活動する。学生運営スタッフとの連携が多く主に年内での活動となる。

短期型地域活動

1日～数日単位で行われる地域貢献（ボランティア）活動。地域からの要請を受けたセンターがメーリングリストや学内ポスターなどを通じて学生に情報を提供するとともに活動実施日まで、受け入れ先との調整を行う。

●短期型地域活動の一覧は、P44 参照。

地域共生教育センターの歩み

- 2010.4.1 地域共生教育センター設立
- 2010.4.21 地域共生教育センター開所式
- 2010.9 広報誌「FUL」創刊
- 2011.3.11 第二回北九州学生フレゼン大会で「云頭賞」（最高賞）を受賞
- 2011.3.11 東日本大震災が発生
- 2011.4.21 東日本大震災関連プロジェクト立ち上げ
- 2012.3 東日本大震災関連活動部門賞を受賞
- 2012.10.10 登録学生数が1000名を達成
- 2013.2 ふくおか地域づくり活動賞を受賞
- 2013.7.11 防犯・防災ボランティアプロジェクト
- 2014.3.23 福岡県防犯協会連合会と福岡県警より表彰
- 2014.7.11 東日本大震災関連プロジェクト「福岡県防災賞（知事表彰）」受賞
- 2016.1.23 第三回地域活動発表会
- 2016.2.10 防犯・防災プロジェクト
- 2016.4.1 緊急時災害支援チーム発足
- 2016.4.14 熊本地震が発生
- 2016.5.2～5 熊本地震災害支援第一次派遣
- 2016.5.28～6.26 熊本地震災害支援第二次派遣（計五回実施）
- 2016.7.14 熊本地震派遣学生報告会
- 2016.10.1 防犯・防災プロジェクト
- 2016.10.21 福岡県防犯協会連合会会長と福岡県警生活安全部長より表彰
- 2016.10.28～10.31 防犯・防災プロジェクト
- 2016.11.27 北九州市長より安全・安心に関する活動団体表彰
- 2017.2.14 平成28年度公立大学全国学生大会（LINK topops）運営
- 2017.7.5 ふくおか地域づくり活動賞を受賞
- 2017.7.15～17 九州北部豪雨発生
- 2017.8.5～8 九州北部豪雨支援第二次派遣
- 2017.11 「平和の駅運動」プロジェクト
- 2018.3 ふくおか地域づくり活動賞を受賞
- 2018.3 「福岡県防災賞（知事表彰）」受賞
- 2018.12.25 緊急時災害支援チーム
- 2020.1.16 ふくおか地域づくり活動賞を受賞
- 2020.3.10 『食』から学ぼうプロジェクト
- 2020.3.10 『食』から学ぼうプロジェクト
- 2020.3.10 農林水産省食育活動表彰
- 2020.7.5 ボランティア部門（大学等）消費・安全局長賞
- 2020.10.27 防犯・防災プロジェクトMATE's
- 2021.1.23 北九州市青少年ボランティア表彰（優秀賞）
- 2021.2.11 北九州市子ども家庭局青少年課より宮城県南三陸町長より
- 2021.3.1 東日本大震災関連プロジェクト
- 2021.7.30 東日本大震災災害支援への感謝状
- 2021.12.23 宮城県南三陸町長より
- 2022.1.22 防犯・防災プロジェクトMATE's
- 2022.8.20 安全・安心なまちづくりへの活動に対する感謝状
- 2023.1.18 北九州市長より
- 2023.2.8 防犯・防災プロジェクト
- 2023.2.8 令和4年度福岡県青少年健全育成対策推進本部長顕彰

地域につながる小さな一歩

短期型の地域活動

2022年度は100近くの短期型の地域活動を案内し、その中で78名の学生が参加しました。活動に参加することにより、地域とのつながりや大切さ、人とのコミュニケーションの重要性を学ぶことができました。

| 活動名(内容) | 主催者 | 参加人数 |
|-----------------------------------|------------------------------|------|
| こいのぼりの掲揚・片付け・紫川清掃の依頼 | 小倉南区コミュニティ支援課 | 3 |
| ミュージアム・ツアー・サポーター | 北九州市立美術館 | 2 |
| 「子どもの館 HOW!？」ボランティア | 北九州市立子どもの館 | 1 |
| 海洋性レクリエーションボランティア指導者養成講座 | みやこ町教育委員会 | 2 |
| 子ども食堂のサポートボランティア | 佐藤 誠 | 2 |
| 子どもの夏休みの宿題サポートボランティア | 佐藤 誠 | 2 |
| 小倉城竹あかり灯籠作成 | 小倉城竹あかり実行委員会 | 2 |
| 茶売公園清掃 | 茶売公園愛護会 | 1 |
| われら海岸探偵団 | まちのカルシウム工房(われら海岸探偵団) | 2 |
| デイキャンプ イン よみや 2022 | 夜宮青少年センター | 2 |
| 勝山パークシネマ | 一般社団法人 BASEMENT 北九州 | 3 |
| 北九州市立城野小学校学習支援サポーター | 北九州市立城野小学校 | 7 |
| 水かけまつり | 一般社団法人 BASEMENT 北九州 | 2 |
| 藍島清掃団 | NPO 法人 SDGs Spiral | 4 |
| 関門海峡花火大会 | 関門海峡花火大会実行委員会門司 | 3 |
| Kitakyushu Rock Festival 2022 | 北九州ロックフェスティバル制作委員会 | 6 |
| ハイブランドが集う合同ファミリーセールイベント | THAT'S FASHION WEEKEND 実行委員会 | 1 |
| 小倉城竹あかり 作品搬入 | 小倉城竹あかり実行委員会 | 1 |
| 小倉城竹あかり 2022 | 小倉城竹あかり実行委員会 | 2 |
| 平成竹取伝説 | 北九州ピオトープネットワーク研究会 | 2 |
| 秋の山田の森フェスタ | 山田緑地 | 1 |
| 山田の森ぐらし | 山田緑地管理事務所 | 1 |
| 第30回北九州市子ども会駅伝競走大会 | 北九州市子ども会連合会 | 1 |
| サンタが夜宮に降りてくる | 北九州市夜宮青少年センター | 1 |
| 24th YOUNG SANTA | 一般社団法人北九州青年経営者会議 | 2 |
| 北九州マラソン 2023 (受付) | 北九州市・(一財)北九州市陸上競技協会 | 3 |
| 門司港レトロマラソン | 門司港レトロマラソン実行委員会 | 1 |
| 親子の居場所 ココ café | 親子の居場所 ココ café | 2 |
| 第4回いとめる大作戦 | 北九州市水環境館 | 2 |
| 玄海 Thanks Day「Genkai Open Garden」 | 福岡県少年自然の家「玄海の家」 | 2 |
| 国際スポーツ交流会 | 北九州市・公益財団法人北九州国際交流会 | 3 |
| 北九州ポップカルチャーフェスティバル 2022 | KPF 実行委員会・北九州市 | 1 |
| 北九州市立大学吹奏楽団定期演奏会 | 北九州市立吹奏楽団 | 2 |
| フードサポート北九州 | フードサポート北九州実行委員会 | 2 |
| 長崎街道「曲里の松並木」清掃 | チーム松並木 | 2 |
| 北九州ラーメン王座選手権 2023 | 北九州ラーメン王座選手権実行委員会 | 2 |
| 合計 | | 78 |

短期型地域活動の紹介

私が活躍できる場所、を見つけました

421Lab.では、1日から参加できる短期の地域活動も学生に紹介しています。学生がそれぞれ得意なことを活かしながら地域で活動している様子をご紹介します。

『デイキャンプ イン よみや 2022』

友達に誘われて「デイキャンプインよみや」にボランティアとして参加しました。活動内容は小学生と一緒にカレーをつくったり、レクリエーションをしたりするものでした。私自身、このような活動に参加するのは初めてで、小学生とも上手く接することができるか不安でした。周りのボランティアの方たちとも協力して取り組み、参加しました。小学生に楽しかったと言ってもらえることができ、とても良い経験となりました。



経済学部 経済学科 1年 村尾 遙志郎

『藍島清掃団』

「猫島」としても有名な北九州市小倉北区「藍島」の清掃ボランティアに参加しました。

私が参加した日は台風の後だったということもあり、プラスチックごみがとても多かったです。また、海外の言語で表記されたゴミがたくさんありました。授業で習った世界の環境問題を実際に見ることができ、改めて環境問題の深刻さについて考えることができた一日でした。



地域創生学群 地域創生学類 1年 日高 真愛

『山田の森ぐらし』

山田緑地で実施されている「山田の森ぐらし」に参加しました。子どもたちが以前植えた稲を刈り、その稲わらで葉書を作りました。植物の名称や工具の使用方を教えていただき、活動しながら知識を身につけることができ、ボランティアはただのお手伝いではないということを学びました。今後もボランティア活動を通して学びを見つけていきたいと思います。



法学部 法律学科 2年 小松 史穂

『小倉城竹あかり 2022』

小倉城竹あかりのボランティアに参加させていただきました。地域を悩ませる「竹害」を「竹財」へという取り組みは大成功だと来場者の笑顔を見て感じました。竹灯籠や竹紙を通した蠟燭の灯には人工照明にはない温かみを感じ、また幻想的に浮かび上がる小倉城もとてもきれいでした。今回の試みに直接関わることができて良かったです。



法学部 法律学科 2年 和田 健人

メディア

2022 年度地域共生教育センター活動記録

| | 会 議 | | | 研 修 | | Twitter 更新回数 | |
|-----|-----------------------|---|--|---|------------------------|--|----------|
| | 地域共生教育 センター会議 | 地域共生教育 センター運営部会 | 事務局会議 | 学生運営 スタッフ会議 | 学生説明会 | | 運営スタッフ研修 |
| 4月 | | 第1回 4/14 (メール) 第2回 4/15 | 第1回 4/15 第2回 4/19 第3回 4/26 | 第1回 4/20 | | | 17回 |
| 5月 | 第1回 5/25 (チームス) | 第3回 5/10 第4回 5/24 | 第4回 5/10 第5回 5/17 第6回 5/31 | 第2回 5/11 | | 5/14 前期スタートアップ | 8回 |
| 6月 | | 第5回 6/7 第6回 6/8~6/10 (メール) 第7回 6/15~6/17 (メール) | 第7回 6/14 第8回 6/21 第9回 6/28 | 第3回 6/8 | | 6/13~30 プロジェクトお邪魔企 画&目標設定企画 6/22 マナー講座 | 12回 |
| 7月 | | 第8回 6/29~7/3 (メール) 第9回 7/5 第10回 7/28~7/31 (メール) | 第10回 7/12 第11回 7/26 | 第4回 7/6 第5回 7/20 第6回 7/27 | 7/13~15 (会計処理について) | 7/20 デザイン講座 | 14回 |
| 8月 | 第2回 8/24 (チームス) | 第11回 8/8~8/12 (メール) | | | | | 1回 |
| 9月 | | | | | | | |
| 10月 | | 第12回 10/11 | 第12回 10/4 第13回 10/18 第14回 10/25 | 第7回 10/5 第8回 10/19 | | 10/15 前期振り返り・後期ス タートアップ | 8回 |
| 11月 | | 第13回 11/2 第14回 11/7~11/10 (メール) | 第15回 11/1 第16回 11/8 第17回 11/15 第18回 11/22 第19回 11/29 | 第9回 11/1 第10回 11/8 第11回 11/15 第12回 11/22 第13回 11/29 | 11/28~30 (報告書原稿説明会) | | 10回 |
| 12月 | 第3回 12/14~20 (メール) | 第15回 12/14 第16回 12/20~26 (メール) | 第20回 12/6 第21回 12/13 第22回 12/20 | 第14回 12/6 第15回 12/13 第16回 12/20 | | 12/3 リーダー交流会 | 4回 |
| 1月 | 第4回 1/26~2/2 (メール) | 第17回 1/11 第18回 1/16~17 (メール) 第19回 1/24~26 (メール) | 第23回 1/10 第24回 1/17 第25回 1/24 第26回 1/31 | 第17回 1/10 第18回 1/17 第19回 1/24 | | 1/10~27 後期振り返り(動画) | 2回 |
| 2月 | | 第20回 2/8 | 第27回 2/7 第28回 2/28 | | | 2/13 地域活動発表会 | 3回 |
| 3月 | | 第21回 3/6 | | | | | |

福岡県環境教育学会
第25回年会
年会実行委員会発表賞



2022年8月20日受賞
『食』から学ぼうプロジェクト

防犯活動に関する
感謝状



2023年1月18日受賞
防犯・防災プロジェクト (MATE's)

令和4年度福岡県青少年健全育成
対策推進本部長 顕彰



2023年2月8日受賞
防犯・防災プロジェクト (MATE's)



地域の「チカラ」が必要です

お申し込みの流れ

421Lab.を通じて様々な形で地域社会に出た学生が、地域とつながり成長しています。また、この良い影響が学内にも広がり、地域活動に参加したいという声も多くなってきております。

この取り組みを広げていくためには、学生を受け入れてご指導くださる地域のフィールドが必要です。下記の流れに沿って地域活動の募集をお受けしていますので、ご不明な点は下記のURLをご参照いただくか、お電話またはメールにてお問い合わせください。

<https://www.kitakyu-u.ac.jp/421/application02.html>

1.お申し込みの前に

地域活動の依頼をお受けするに当たり、学生が安全に活動できるように、いくつかの地域団体・活動の選定基準を設けています。新規でお申し込みいただく団体の皆さまは、一度、421Lab.へお越しいただき募集内容などをご相談ください。

2.活動概要の提出

相談後、421Lab.の活動趣旨をご理解いただけましたら、活動報告書やパンフレットなどの団体・活動の実績が分かる書類、地域活動のチラシを合わせてお持ちください。提出いただいた資料を基に、活動のタイプを検討させていただき、チラシ・HPなどで周知します。

3.学生募集

掲示板、ウェブサイトなどにて周知します。また、相談に来た学生には、学生の関心やスケジュールに応じて紹介します。プロジェクト型の活動については説明会にて活動概要のご紹介をお願いすることがありますのでご協力ください。

4.マッチング

【プロジェクト型、マッチング型】(長期型)

学生からの申し込みがありましたら日程調整等のご連絡をさせていただきます。地域活動の内容確認や調整させていただきます。

【インフォメーション型】(短期型)

421Lab.もしくは地域活動を希望する学生より直接ご担当者へご連絡いたします。

5.地域活動

プロジェクト型、マッチング型では活動に取り組む前に事前学習を行います。活動の理解を深めるために取り組み背景や活動趣旨、留意点などのレクチャー、専門的技術や知識に関する講座などをお願いします。また、活動を振り返る発表会や反省会の実施などをお願いいたします。